



千葉大学医学部同窓会報 第192号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : https://www.inohana.jp/



令和5年度
るのほな同窓会総会開催

令和5年度るのほな同窓会総会が令和5年6月10日(土)午後2時半よりステーションコンファレンス東京で会場とZoom利用によるWebのハイブリットで開催された。

安西尚彦理事の司会により開会となり、会議に先立ち物故者126名の冥福を祈り黙祷を捧げた。吉原俊雄会長の挨拶の後、各議事、るのほな同窓会賞規定については吉原会長より、医学部150周年記念事業については栗原正利副会長、田邊政裕理事より説明があり、議事はすべて審議・了承された。(議事要旨は35面に掲載)。

総会に引き続き令和5年度るのほな同窓会賞社会貢献賞の表彰式が行われ、特別顧問に就任された三木隆司千葉大学大学院医学研究院長・医学部長、再任された横手幸太郎千葉大学医学部附属病院院長より挨拶があった。続いてビデオメッセージが大石賢吾長崎県知事より寄せられた後、横須賀忠氏の司会で、鎌谷洋一郎氏による「ゲノムデータをプライマリケアで利用する日は来るか?」、齊藤光江氏の司会で、甲賀かをり氏による「産婦人科学に関する最近の話題と千葉での課題」の講演会が行われた。講演内容は次号193号に掲載。

千葉大学るのほな同窓会長に
吉原 俊雄氏 (昭53)
が再任されました。

かをり(平8)、石川詔雄(昭47)、宮本恒彦(昭54)、赤倉功一郎(昭59)、諏訪園靖(平6)、菱木知郎(平5)、横須賀忠(平5) 後列・大本由樹(平3)、赤倉早苗(昭59)、鎌谷洋一郎(平14)、櫻井健一(平4)、秋田新介(平14)、石原順就(平8)、吉村健佑(平19)

第28回 (2023年度) るのほな同窓会賞 受賞者決定

社会貢献賞

神田 敬 (日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会参与、昭35年卒) 「学校保健活動および病診連携の推進に貢献」

祝 叙 勲

令和5年 春の叙勲
瑞宝小綬章 福田 健 (昭48)
瑞宝双光章 旭日双光章 伊達 裕昭 (昭50)
水野 幸一 (長崎大・昭40)
田井千津子 (昭39)

原稿募集について

千葉大学医学部および附属病院は令和6年(2024年)に創立150周年を迎えます。同窓会では150周年記念文集「日本館の思い出(仮称)」の制作に取り組むこととなりました。詳細は同封のご案内をご覧ください。

紙面紹介

総会開催	2
就任挨拶	4
役員紹介	6
人事異動	6
卒業祝辞	5
地区るのほな会報	4
叙勲感想	2
最終講義	12
各地るのほな会	17
クラス会	13
会員から	16
研修プログラム	21
研修医だより	23
追悼文	22
欧州医学史巡り	24
著書紹介	26
雑文雑談	25
学内情報	27
タッチパネル	28
課外活動団体だより	29
献体の集い	30
日本医師会認定産業医研修会	31
議事要旨	32
編集後記	33
	35

会長再任挨拶

るのほな同窓会長

吉原 俊雄 (昭53)



令和3年6月にるのほな同窓会長を拜命してからあつという間に2年が経ちました。実現しようとしておりました様々な案件のうち、まだ未完のものも多く残されており、再任後は少しでも追いつきたいと考えております。1期目を総括しますと新役員の先生方の同窓会役割分担の確認、旧評議員を一旦廃止し学年幹事へと改変、旧本館閉館に伴う記録映画の製作、会員へのDVD案内と、寄付依頼と進んできました。会長となったお蔭で千葉大学の校友会理事(現在は副会長)として西千葉での会議参加、医学部解剖慰霊祭の臨席、学生の研究成果発表である「ちばBCRC」の参加と表彰、白衣式でのスピーチと白衣を羽織る所作、ホームカミングデーの祝辞と表彰、卒業式祝辞、

支部である千葉県るのほな会、東京るのほな会、神奈川県るのほな会総会への参加等、大変充実しております。また東京の大学の医療系学部と市中病院、診療所で週5日は働いており、スケジュール調整に腐心しましたが、意義ある経験となりました。改めて母校の良さ、素晴らしさを実感しました。

2期目に実現したいことに2024年の千葉大学医学部開設150周年記念事業があります。初代校長の長尾精一先生の胸像の復刻(戦時中に供出し、現在台座のみ旧本館の前の林の中に佇んでいる)、旧本館にまつわるエピソードや思い出の文集作成や写真集を考えたいです。さらには各支部の活性化として従来の金銭的支援のみでなく、実際に多くの先生が参加し意見交換する場となるよう支援したいと考えています。過去、全国に医学部が開設されるまでは他府県の高校からの入学生、そして多くの関連病院とそれに伴う医師派遣

がありましたが、時代の流れとともに千葉、東京、神奈川、埼玉など首都圏からの学生が増え、関連病院も県外は減少していることが支部会員数の減少の要因となつています。しかし人数に関らず同窓が集まり旧交を温め、情報共有する重要性は変わりません。本年のホームカミングデーは11月19日(日)、昭和48年卒、平成10年卒の先生方が対象ですが、昭和38年卒の先生方より同期会を同日開催の希望があり、大勢となり大変盛り上がりそうです。また、亥鼻キャンパスに同居する看護学部、薬学部の同窓会長とお会いし意見交換もしたいと思つています。最後に懸案となつている旧本館の保存については難しい面もあります。このままでは千葉県の文化財級建造物が劣化し、壊す予算もない様子で廃墟建造物に成り下がってしまう危険があります。同時期に建造された白金の東大医学部研究所は港区が補強と内層リフォームを行い、区民のための郷土歴史館、保育施設、学童クラブ、カフェ、図書室、子育て広場、がん在宅緩和ケア支援センターなど多目的に使用され区民、区民以外の自由な憩いの場となつています。

同時期に建造の国会議事堂、東京国立博物館も現役です。旧本館のDVDに興味を持たれた朝日新聞社、千葉日報社の取材を受けております。建築専門の方々意見交換したところ、我が国もかつてのように古いものを壊して新しいものを建築という流れから、古いものをリフォームしていかに次世代に保存し残していくかという考え方に変わつてきているとのこと。会長2期目には様々なアプローチで保存に向けた取り組みをしたいと考えております。是非会員の皆様には様々な角度からのご意見やご支援を頂ければ幸いです。

令和4年度 教授就任

- 甲賀かをり (平8) 千葉大学大学院医学研究院 生殖医学
- 馬場 隆之 (東医歯大・平9) 千葉大学大学院医学研究院 眼科学
- 平原 潔 (新潟大医・平13) 千葉大学大学院医学研究院 免疫発生学
- 猪狩 英俊 (昭63) 千葉大学医学部附属病院 感染症制御部・感染症内科
- 潤間 励子 (平4) 千葉大学 総合安全衛生管理機構
- 大浜 俊幸 (平9) 千葉大学 総合安全衛生管理機構
- 大島 郁葉 (早大・平14) 千葉大学 子どものころの発達教育研究センター
- 三浦 文彦 (平3) 帝京大学医学部附属 溝口病院外科
- 山口 淳一 (平5) 東京女子医科大学 循環器内科学
- 渡邊 栄三 (平9) 愛知医科大学病院 救命救急科
- 安部 隆三 (平11) 大分大学医学部 救急医学講座
- 末永 忠広 (平11) 北里大学医学部免疫学
- 石沢 武彰 (平12) 大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆臓外科学
- 横尾 英孝 (平17) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 社会・行動医学医歯学教育講座

令和5年度千葉大学医学部 ホームカミングデー (卒後四半世紀・半世紀卒業生の集い) 開催のお知らせ

開催日：令和5年11月19日(日)

- ご案内学年：昭和48年卒業生(卒後50年)
- 平成10年卒業生(卒後25年)
- 昭和38年卒業生(卒後60年)*

母校においてホームカミングデーを上記日程で開催します。卒後60年(昭和38年卒)、卒後50年(昭和48年卒)、25年(平成10年卒)の会員皆様に御来校いただき、これまでの御活躍への感謝の念をお伝えし、感謝状・激励状および記念品を贈呈いたしたいと存じます。

*本年度は、特別に卒後60年の会員もご招待する予定としています。
万障お繰り合わせのうえ、ご参集頂けましたら幸いです。

令和5年度 新会計監事・ 新理事紹介

会計監事

幡野 雅彦 (昭57)



千葉県るのほな会 理事



小島 広成 (平3) 渉外部

栃木るのほな会 理事



森本 直樹 (平3) 渉外部

千葉大学るのほな会 理事



伊藤 彰一 (平10) 学生担当



甲賀かをり (平8) 学生担当

千葉大学大学院医学研究院長・医学部長就任挨拶

千葉大学のはな同窓会特別顧問
代謝生理学 三 木 隆 司 (昭63)



この度、令和5年4月より、千葉大学大学院医学研究院長・医学部長を拝命いたしました。この長き歴史と伝統を誇る千葉大学医学部と大学院医学研究院の責任者を務めさせていただくことは大変な光栄であり、今、改めてその責の重さを感じ、身が引き締まる思いです。

研究室の立ち上げ・運営とともに、医学部・医学研究の業務も少しずつ学ばせていただきました。その後、細胞分子医学の清野進教授のもとに異動し、基礎医学研究者となりました。その後2003年に清野教授の神戸大学への異動とともに研究室全体が神戸に移動しましたが、私自身は2007年に千葉大学(大学院医学研究院代謝生理学)に戻り、現在に至っております。

この間、一貫して糖・エネルギー代謝の基礎研究を続けて参りましたが、共同研究として東北大学の宮崎純一教授(後に大阪大学教授)、北海道大学の岩永敏彦教授、生理学研究所の蓑越靖彦教授の研究室に入りました。その後、大学附属病院、国保松戸市立病院での勤務を経て、1992年に第二内科の糖尿病グループ(グループ長・牧野英一講師(後に愛媛大学教授))に加わりました。さらに横浜労災病院内分泌代謝科への出向を経て、1995年から糖尿病の基礎研

究を精力的に進めていた千葉大学医学部高次機能制御研究センター発達生理分野(その後、細胞分子医学)の清野進教授のもとに異動し、基礎医学研究者となりました。その後2003年に清野教授の神戸大学への異動とともに研究室全体が神戸に移動しましたが、私自身は2007年に千葉大学(大学院医学研究院代謝生理学)に戻り、現在に至っております。

この間、一貫して糖・エネルギー代謝の基礎研究を続けて参りましたが、共同研究として東北大学の宮崎純一教授(後に大阪大学教授)、北海道大学の岩永敏彦教授、生理学研究所の蓑越靖彦教授の研究室に入りました。その後、大学附属病院、国保松戸市立病院での勤務を経て、1992年に第二内科の糖尿病グループ(グループ長・牧野英一講師(後に愛媛大学教授))に加わりました。さらに横浜労災病院内分泌代謝科への出向を経て、1995年から糖尿病の基礎研

加に共用試験合格が法的に必要となります。また、COVID-19の流行を受けて教育方法も変わっており、座学スタイルの講義から討論タイプの小グループ教育が主流になってきており、教員も時代の変革に即した最新の教育方法を実践することが求められています。一方、大学院教育は医学部の研究を支える原動力としても重要ですが、修了生の大多数が千葉県内外の臨床医として勤務することを考慮しますと、科学的思考能力を医療現場で生かし、最良の医療を提供し、社会へ還元することも学修の大きな目的です。

研究については近年、全国規模で医学領域の研究力の急速な低下が問題となっており、本学医学部でも積極的に対策を打ち出していく必要があります。しかも2024年度から開始予定の「医師の働き方改革」とも整合性を取る必要があります。一方、わが国の大学側にも、構造的な問題点を含めて課題は複数あり、文部科学省は各大学に対し強く「自主的な改革」を求めています。文科省の国立大学に対する施策の中でも特に重要なのが「学長のガバナンスの強化」とそれに基づく「大学自身による大学の組織改革の推進」です。現在、国立大学への運営費交付金も各大学の取り組みが評価され、その評価に基づき予算が傾斜配分されています。従って千葉大学の主要部局である医学部は、これからも学長が謳う「千葉大学の目指すところ」を良く理解し、学長と歩を合わせ、緊密に連携しながら、千葉大学の改革を医学部がしっかりとサポートしていくことが重要と考えております。こうした取り組みを通じ、世界レベルで競争力のある研究体制を少しでも早く再構築し、世界に優れた研究成果を発信し、千葉大学医学部が目指す「治療学」を強力に推し進めていければと考えております。特にこれからの数年間で、文科省による我が国の各大学の格付けが急速に加速します。今こそ千葉大学医学部の力を結集して、この難題を乗り越えていく時だと考えています。

診療につきましましては、附属病院と一体となった対策が必要ですが、しかしながら、教職員数の不足や業務量の増加などで、臨床講座の教員の負担・疲労は大きく、これが上記の教育・診療に

も悪い影響を与えかねません。医学部・医学研究院ができることとして、教育・研究での連携、業務の分業化・効率化が挙げられます。例えば、教員業績評価などでも、適材適所での活躍を弾力的に評価し、全ての教員が誇りをもって働ける環境作りを推進していければと考えております。

これらの大学教員のミッションを高いレベルで実現していくためには、教職員の皆様が、常に正確な情報を共有・把握・分析し、よりよい未来を目指す解決策を皆さんで常に探し続けることも大切です。

さらに、千葉県内外の医療機関で日常の医療を支えてくださっているのはな同窓会の皆様のご支援とご助言は、千葉大学大学院医学研究院の継続的発展に不可欠です。今後も、千葉大学医学部と大学院医学研究院の様子につきましては折に触れて皆様にお伝えしていきたいと考えておりますので、今後も変わらぬご支援とご鞭撻をお願いできれば幸甚です。よろしくお願ひ申し上げます。

令和5年度総会において選出

名誉会員

- 石川 詔雄 氏 (昭47) 十川 康弘 氏 (昭55)
- 中村 眞人 氏 (昭54) 幡野 雅彦 氏 (昭57)
- 黒木 春郎 氏 (昭59)

附属病院長再任のご挨拶

千葉大学のはな同窓会特別顧問

内分泌代謝・血液・老年内科学 横手 幸太郎 (昭63)



このたび、附属病院長に再任いただき、令和5年4月1日より2期目を務めることとなりました。精一杯その任務に励む所存ですので、何とぞよろしく願います。

私の病院長第一期は、2020年4月に新型コロナウイルス感染症のパンデミックとともに始まり、第8波の収束とともに終わりました。当初は、SARSとの区別もまだ明らかでないこの新興感染症を前に、医師や看護師を、生命の危険にさらして診療の前線へ送り出す権限が自分にあるのだろうか？と悩み、むしろ自身で病棟に入ることができればどれだけ気が楽だろうと思ったこともありまし

た。ワクチンが普及して、ウイルスの変異も進み、2類相当から5類へと感染症法

上の類型も変更されました。この同窓会報が発行される頃には、日本社会もポストコロナへと大きく踏み出していることでしょう。附属病院においても、GW明けとともに、通常診療モードへシフトチェンジします。平穩とはいえない3年間でしたが、診療や研究に関する数々の話題で、附属病院の活動を全国へアピールできたことはとても嬉しく、ピッチをチャンスに変えた教職員一同の頑張りに改めて感謝いたします。

一方、コロナ後も運営上の課題には事欠かず、外来棟・中央診療棟の新築や新しい設備の導入、医療材料や医薬品の高額化、光熱費の高騰などに伴うコストが病院に大きくのしかかっていきます。いわゆる「コロナ補助金」も実質的には消滅しますので、今後、国内の数多くの病院で苦しい経営状況がむき出しになることでしょう。自院において経営改善の努力を続けるとともに、国立大学病院長会議会長と来年の5月末まで務

める全国医学部長病院長会議会長の立場から、国や県に対して引き続き支援を要請してまいります。さて、附属病院の前身である共立病院が1784年に誕生してから来年で150年になります。とかく目の前のことに追われがちな日常であり、新型コロナウイルスの出現やロシアによるウクライナ侵攻など想定しなかつた出来事にも翻弄される昨今ですが、千葉大学医学部の伝統を継承しつつ新たな発展を遂げるためには、長期的な視点に基づく計画立案や運営が不可欠だと思います。附属病院では、20年後の社会環境とその時に我々が求められる役割について現在得られるデータから予測し、そこから逆算(バックキャスト)して今後の計画に活かすべく「千葉大学病院ビジョン2040」の策定を始めました。そして、これからは、院内の各分野で次代を担う若手の皆さんにより多くの活躍の場を提供し、次の150年の飛躍につなげることが

できればと思う次第です。同窓会の先生方におかれましては、尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

人事異動

教授

生殖医学

甲賀かをり(平8)

(東京大学准教授より)

皮膚科学

猪爪 隆史(山梨大・平10)

(同講師より)

准教授

画像診断・放射線腫瘍学

渡辺 未歩(平16)

(同講師より)

和漢診療学

平崎 能郎(平22院)

(同特任准教授より)

小児病態学

高谷 具純(平15)

(同助教より)

予防医学センター

越坂 理也(愛媛大・平13)

(病院助教より)

災害治療学研究所

李 恩瑛(平22院)

(医学研究院助教より)

人工知能(AI)医学

大田 達郎(神大農・平21)

講師

動物病態学

長谷川孝徳(北里大・昭60)

(バイオメディカル研究センター特任助教より)

アレルギー・膠原病内科

岩田 有史(平13)

(アレルギー・臨床免疫学助教より)

糖尿病・代謝・内分泌内科

鈴木佐和子(平21院)

(同助教より)

呼吸器内科

重田 文子(平13)

(同助教より)

乳腺外科

藤本 浩司(秋田大・平11)

(同助教より)

眼科

三浦 玄(平21院)

(同助教より)

集中治療部

大網 毅彦(平28院)

(救急科助教より)

他大学教授

国際医療福祉大学成田病院

並木 隆雄(昭60)

帝京大学ちば総合医療センター

横内 裕敬(平13)

小児科

南谷 幹史(平元)

近畿大学医学部

救急医学

篠崎広一郎(平14)

病院長

ICHIO千葉病院

岡住 慎一(昭59)

成田赤十字病院

青墳 信之(昭59)

国際医療福祉大学成田病院

吉野 一郎(九州大・昭62)

東千葉メディカルセンター

岩立 康男(昭58)

その他

日本専門医機構副理事長

齊藤 光江(昭59)

桑山 直樹(平27)

古賀 邦林(平27)

救急医療センター

鳴村 文彦(昭63)

副病院長(医療局診療部長)

深澤 万敏(平16)

副病院長(新採)

令和4年度千葉大学医学部 卒業証書伝達式・祝辞

令和5年3月23日(木)

あのはな同窓会長 吉原 俊雄 (昭53)



千葉大学のあのはな同窓会
会員を代表してお祝いを述
べさせていただきます。

皆さん、卒業おめでとう
ございます。また、ご家
族の皆さまにとりましても、
大変晴れがましい日と存じ
ます。

千葉大学医学部での教育
課程をすべて修め、医療者
として輝かしい将来に向け
て歩み始めることになりま
す。本学の教育スタッフ、
病院実習でご協力いただい
た多くの教職員の方々に對
しても感謝申し上げます。
学問のみでなく「あのはな
の地」で学生生活を謳歌し、
クラブ活動や様々な活動を
通じて知り合った同級生、
先輩、後輩との交流は今後
の人生にとって貴重な宝物
となるでしょう。
さて、皆さんは同窓会学

生会員ですが、あのはな同
窓会の目的は、「会員の親
睦」と「医道の昂揚」であ
ります。同窓会として学生
のみならずには「白衣式」、
「ちばBCRC」、「クラブ活
動」、東日本医科学学生体育大
会、亥鼻祭、同窓会館の利
用」などの様々な助成を行っ
て来ましたが、卒業後は皆さ
んが正式な同窓会員となり、
後輩の諸君の支援も行う立
場になります。

同窓会事業の一つとして、
一昨年の野球場跡地の新医
学部研究棟開設に合わせ、
閉館された旧医学部棟
(旧病院)の歴史の編纂と記
録動画の制作事業がありま
した。昭和11年に開院した
旧病院は当時「東洋一」と
称され、第一次世界大戦後
の世界的軍縮会議に従い日
本でも潜水艦などの軍備費
を削減し、その費用が関東
大震災に耐えうるものとし
て建造されました。外国製
ステンドグラスや壁のタイ
ル張りなど豪華な装飾を施
され文化財級のものとして評

価されていること、何よりも
千葉医学の伝統が刻まれた
シンボルとなっており、西
千葉キャンパスを含め大学の
唯一無二の重厚な外観を示
しています。同時期に建設
された国会議事堂、東京国
立博物館も今なお現役で活
躍しています。
完成した旧本館建物の記
録DVDはこれまで会員や
御父母の方に見て頂き、多
大な反響を頂いております。
DVDから旧本館の歴史に
興味を持った朝日新聞社と
千葉日报社から相次いで取
材を受け、2、3か月後に
は記事掲載される予定です。
その際は改めて会員にお知
らせたいと思います。
2024年には千葉大学
医学部創立150周年を迎
えます。皆さんはこれから
臨床研修の後に、臨床医、
研究者、行政と様々な領域
に進まれ、また地域も千葉
大学病院、千葉県内の施設
東京はじめとする他府県の
施設へと多岐に渡ると思
います。皆さんの将来は前途
洋々です。どうぞ自分自身
で将来の進む道を選択し、
努力惜しまず邁進してくだ
さい。最後に一言、ある一定
の地位、年齢になると、出
身大学はどこか、千葉大学
医学部出身ということが必
ずや表に出てきます。強固

な同窓会ネットワークとし
てできる限り支援したいと
思います。ご卒業本当にお
めでとうございました。頑
張ってください。

学長表彰

令和4年度 医学部受賞者
成績優秀賞
仲村理佳子(医6)

学術研究活動賞
潮平 俊哉さん(医6)

(学年は令和5年3月現在)

令和3年度 医学部受賞者
成績優秀賞
高原 彩佳(医6)

課外活動賞
山田 健二(医6)

医学部山中寮診療補助グ
ループ
奥間 政人(医5)
竹田 周平(医3)

学術研究活動賞
岡本 昌大(医4)

(学年は令和4年3月現在)



第117回医師国家試験成績

試験日 令和5年2月4日(土)・5日(日)

合格発表 令和5年3月16日(木)

受験者 125名(新卒者 120名)

合格者 117名 合格率 93.6%
(新卒者 114名 合格率 95.0%)

参考	国立	合格者	4,990人
		合格率	92.4%
	全国	合格者	9,432人
		合格率	91.6%



令和4年度 卒業証書・学位記伝達式

就任挨拶

千葉大学大学院医学研究院

生殖医学 教授

甲 賀 かをり (平 8)



令和5年(2023年)1月1日付で千葉大学大学院医学研究院生殖医学(旧産婦人科学)教授を拝命いたしました。甲賀かをりを

私は1996年に千葉大学医学部を卒業し、武谷雄二教授の率いる東京大学の産婦人科学教室に入局しました。東京大学医学部附属病院、三井記念病院、国立霞ヶ浦病院(現霞ヶ浦医療センター)等で研修を行った後、1999年に大学院に進学しました。大学院では、「ライフワークとなる「子宮内膜症」という疾患を研究テーマに与えられ、専門外来の立ち上げ、臨床研究・基礎研究を開始しました。周産期医学分野の研究にも従事し、妊娠中毒症

問題について、社会医学的な研究やZMOを通した啓発活動にも力を入れてまいりました。

(現妊娠高血圧症候群)の予知における「STET」の有効性に関する研究に対しては、2003年に「なのはな同窓会学外研究助成」を頂戴し、同窓の先生方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

その後J R 東京総合病院、武蔵野赤十字病院等を経て、2006年から豪州プリンスヘンリー研究所(モナッシュ大学)、米国イェール大学に留学の機会を得ました。ここでは早産・妊娠高血圧症候群の基礎研究を行いました。2008年の帰国後は、東京大学産婦人科教室で、後進指導の機会も得ながら、臨床面では腹腔鏡/ロボット手術・生殖補助医療を中心に研鑽を積み、研究面では留学中のテーマ、ならびに子宮内膜症に関する基礎・臨床研究を進展させて参りました。さらに、「プレコンセプションケア」「更年期」等、女性の生涯にわたる健康管理の

でございます。今後同窓のさらなる発展のために邁進する覚悟で願ひ申し上げます。

千葉大学大学院医学研究院

皮膚科学 教授

猪 爪 隆 史 (山梨医大・平 10)



令和5年(2023年)4月1日付で千葉大学大学院医学研究院皮膚科学の教授を拝命いたしました。歴史と実績のある教室の運営を引き継がせていただけます。是非、これらのご縁を活かし、教室員の研究機会確保、そしてもちろん患者さんにより良い医療を提供するため、引き続き多部門からのご指導をお願いいたします。我々も皆様に貢献できるよう尽力したく存じます。最後に同窓の結びつきの強さにも驚いております。産婦人科の同窓はもちろん、大学・地域、多くの同窓の先生方から高い期待と確固たる信頼を頂いていることを様々な場面で思い知り、伝統ある大学で教室の運営を任された職責の重さに身が引き締まる思い

私は平成10年に山梨医科大学(現山梨大学)を卒業し、以後令和元年まで同大学の皮膚科学教室の島田眞路教授(前山梨大学学長)のもとで研鑽を積んで参りました。山梨大も本学同様、県内全域の重症皮膚疾患を満遍なく診療しており、大変貴重な経験を積むことができました。その経験を生かしつつ、令和2年以降は

おります。引き続きご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

千葉大学皮膚科学教室において診療に励んでおります。様々な皮膚疾患を診療する中で私が特に興味を持ち、ライフワークとして継続しているのがメラノーマに対するがん免疫療法の開発研究です。早期に転移を生じ、予後を改善できる治療が皆無であったメラノーマですが、稀に自然消退が起きるなど、免疫に認識されやすいがんと考えられてきました。そこでメラノーマを拒絶できるように免疫反応を人為的に、コンスタントに惹起することが治療につながると考え、研究を実施して参りました。その間、慶応大学先端医学研究所の河上裕先生(前国際医療福祉大学医学部長、米国国立がん研究所外科の Rosenber SA 博士のもとにそれぞれ留学し、がん免疫研究を学びました。現在は学んだ知識と技術を活用して、免疫チェックポイント阻害剤を用いた皮膚がん治療と、その効果の中心

を担うがん抗原特異的T細胞にフォーカスしたトランスレーショナル研究を継続しております。アレルギー、炎症性疾患、感染症等を含めた他の皮膚疾患についてもこれまでの経験を生かし、千葉大学内外の他の診療科、研究室のご協力とご指導を仰ぎつつ、診療と研究を積極的に展開してゆく所存です。

皮膚科医は広い年齢層に生じる、広いカテゴリーの疾患を診療いたします。そしてその多くは全身状態と関連しているため、他の診療科、コメディカルスタッフ、患者さん、重要他者等としっかりとコミュニケーションをとりながら、最善の診療方針を考えて提案させていただきます。

実施する能力が重要と考えております。そのため、確かな基礎知識、技術、リーダーシップをバランスよく身につけた皮膚科医の養成にも取り組んで行きたいと思っております。

千葉大学大学院医学研究院皮膚科学を築かれた同窓の先生方、私に本学で活動するチャンスを与えてくださった松江弘之助教授に厚く御礼申し上げます。医療を取り巻く状況が変わりゆく中で、診療、教育、研究、地域医療をさらに発展させられるよう、精一杯尽力いたします。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

叙勲、褒章その他祝事に関係されたい方は是非同窓会事務室までご一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

千葉大学

総合安全管理機構 教授

大 溪 俊 幸 (平9)



この度、令和4年10月1日付で千葉大学総合安全管理機構教授を拝命いたしました。これまでにご指導、ご鞭撻をいただきました先生方にはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

私は平成9年に千葉大学医学部を卒業し、東京大学医学部附属病院精神科に入局しました。その後は国立精神神経センター武蔵病院で臨床経験と研究のいろはについて学ぶ機会を得ることができ、大学院に入学後は当時の加藤進昌教授(現東京大学名誉教授)の下で、千葉大学の先輩でもある松尾幸治先生(現埼玉医科大学教授)にもご指導をいただきましたながら、認知行動療法による治療効果と光トポグラフィ装置を用いて測定した脳機能で見られる変化の関係を明らかにする研究

に取り組んでいました。大学院を修了後は東京大学保健センターで非常勤医師として学生のメンタルヘルスの対応をした後、助教として東大病院精神神経科のリエゾンチームで指導医をしていました。その後、留学の機会をいただいて平成20年からはハーバード大学の精神神経画像研究室でMartha E. Shenton教授、故Robert W. McCarley教授に指導をいただきながら、統合失調症のfMRI画像を解析する研究に従事してました。平成23年に帰国した後は、都立松沢病院の検査科医長として光トポグラフィ検査を診断補助として臨床現場に導入する仕事に関わりながら、管理職務の経験もさせていただきました。また、東京大学医学部では、非常勤講師として医学教育に携わらせていただきました。平成24年からは総合安全管理機構の准教授として、15年ぶりに母校に戻って勤務させていただくことになり、精神科専門医、産業医として千葉大学の学

生、教職員のメンタルヘルスの問題に対応をしてきました。また、診療と併行して医学研究院認知行動生理学教室の清水栄司教授をはじめ、子どもたちの発達教育研究センターの先生方にご指導、ご協力を賜りながら発達障害の臨床研究を行っております。

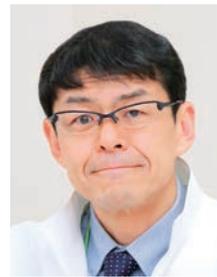
新型コロナウイルスの感染拡大は、学生、教職員の生活様式やメンタルヘルスに少なからず影響を及ぼしてきました。このため、学生では修学上の問題、教職員では業務負荷やストレスの増加による影響が原因でメンタルの不調をきたすことが懸念されます。このような状況に対して、今後も学校医あるいは産業医として診療とサポートのいっその充実ができるように取り組む所存でおります。また、研究・教育では、国内外の機関と連携しながら発達障害研究、治療研究を推進し、子どものこころの発達教育研究センター、連合大学院、人文社会公共学府、教育学部での講義や研究・論文指導により、微力ながらも研究者の育成に貢献することができればと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

国際医療福祉大学

医学部呼吸器内科学 教授(代表)

坂 尾 誠 一 郎 (平5)



この度、令和5年4月1日付で、国際医療福祉大学医学部呼吸器内科学教授(代表)、国際医療福祉大学成田病院呼吸器内科学部長に就任いたしました坂尾誠一郎です。この様な大役を頂き、責任の重大さに身の引き締まる思いです。スタッフと二致団結し、また関係する先生方にご指導を頂き、本学呼吸器内科学教室を今よりもっと大きく、もっと前進させていきたいと決心を新たにしているところです。

国際医療福祉大学医学部は、本年3月に本学医学部初めての学生(第一期生)が卒業し新たな道へ旅立ちました。本年度の医師国家試験では、留学生15人を含む124人が合格し、合格率99.2%で全国2位となりました。また4月から第一期生が初期研修医として配属され、彼らと共に呼吸器内科診療を実践しています。現在、本学呼吸器内科は10人に満たない小さな医局です。日々の臨床と教育が全てで、基礎研究の実践には程遠い環境にあります。しかし優れたスタッ

ターへ留学し、肺循環の基礎研究を行いました。千葉大学医学部呼吸器内科教室では、栗山喬之名誉教授、巽浩一郎名誉教授よりご指導を頂き、肺循環を中心に呼吸器内科一般の臨床・研究を実践し、さらに呼吸器内科を旨とする人材育成に注力してまいりました。この経験を活かし、国際医療福祉大学という新たな舞台で、今後は鋭意努力していく所存です。

私は卒業後、当時の千葉大学第二内科(齋藤康教授)に入局、千葉大学医学部附属病院および国保旭中央病院で研修を行いました。その中で私は不明熱の診断過程、自己免疫性疾患の面白さに惹かれ、第二内科のアレルギー・免疫グループに加えていただきました。千

獨協医科大学

リウマチ・膠原病内科主任教授

リウマチセンター長

池 田 啓 (平9)



および本邦呼吸器内科の発展に尽力していく所存です。甚だ微力ではございますが、何卒倍旧の御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成9年卒業の池田啓と申します。この度ご縁をいただき、令和5年4月1日付けで、獨協医科大学リウマチ・膠原病内科主任教授・リウマチセンターセンター長に就任させていただきました。

私は卒業後、当時の千葉大学第二内科(齋藤康教授)に入局、千葉大学医学部附属病院および国保旭中央病院で研修を行いました。その中で私は不明熱の診断過程、自己免疫性疾患の面白さに惹かれ、第二内科のアレルギー・免疫グループに加えていただきました。千

博士課程終了後、私は平成16年よりシンガポールのTan Tock Seng Hospitalならびに英国のLeeds Universityに留学し、リウマチ性疾患・膠原病の診療と臨床研究の研鑽を積みました。苦勞の連続でしたが、グローバルな視点、語学力、人との繋がりなど、得るものが多い留学となりました。帰国後、私は千葉大学アレルギー・膠原病内科/アレルギー・臨床免疫学(中島裕史教授)において、診療・研究・教育に尽力してまいりました。私が取り組んできた主なテーマは、リ

ウマチ性疾患・膠原病の画像診断、オミックス解析、分子標的薬の臨床試験、診療ビッグデータ解析です。特に関節リウマチの超音波検査（関節エコー）では、国内外の多くの研究・教育・標準化の取り組みに関わらせていただきました。

この度、獨協医科大学リウマチ・膠原病内科にご縁をいただいたのは、前任で同門の大先輩である倉沢和宏教授がお声掛けくださったのがきっかけです。獨協医科大学病院は栃木県下都賀郡壬生町にあり、広い診

近畿大学医学部

救急医学教室 主任教授



篠崎 広一郎 (平 14)

令和5年(2023年)4月1日より、近畿大学医学部救急医学教室主任教授を拝命しました。篠崎広一郎です。私は、2002年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学病院の平澤博之先生の元で救急集中治療医学を学び、前任の教授である織

療圏をカバーするリウマチ・膠原病の中核施設です。豊富な症例数、倉沢教授が培われたリサーチマインドを活かし、丁寧な診療と診療に繋がる臨床研究を続けていきたいと考えています。

浅学非才の身ではございますが、診療・研究・教育に一層精励いたす所存です。千葉大学の諸先輩・後輩の皆様には、今後もしろろな場面でお世話になるかと存じます。今後とも何とぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

田成人先生、現教授である中田孝明先生に支えられて、一人でも多くの重症患者を救うため、千葉市の救急医療の発展に深く関わってまいりました。2009年に千葉大学大学院を卒業し、心停止蘇生後患者の予後予測因子の研究にて医学博士の学位を取得しました。そして、2013年に平澤先生の紹介で、米国ペンシルバニア大学の Lance B. Becker 教授の研究室に留学しました。

心停止蘇生後症候群の研究分野では、全米で最も大きな研究室の一つに数えられる Beckwith 教授の研究室において、当時、日本人留学生は私が初めてでした。私の研究分野は酸素エネルギー代謝、ミトコンドリア機能異常、ATP代謝と免疫・侵襲反応と多岐におよび、末梢循環や酸素消費量を評価する医療機器の開発にもたずさわり、10年間米国で研究を続けました。現在、我々が知っている病態生理は、実態の一部でしかありません。研究が余り進んでいない蘇生研究分野でその理解を深めるためには、多くの時間を費やす必要がありました。そして、2015年に Becker 教授のオフィスで、ニューヨークのファイ

ンスタイン医学研究所に移籍することとしました。診療面では2018年から米国ニューヨークの EBR で臨床をしていました。卒後10年以上が経っており、米国の医師国家試験に相当する RUSMLE の合格は簡単ではありませんでしたが、米国医師がどのような医学的知識に基づいて医療を実践しているかを学ぶ良い機会となりました。米国の臨床

医は専門分野に進むため、レジデント終了後に1〜2

年のフェローを経験する必要があり。しかしながら、私の場合は研究経験があったため、幸いなことにレジデント終了後すぐにいくつかの大学からリサーチ・ファカルティ、正規雇用のオファーをいただくことができました。そして、600〜700床クラスの3次医療施設である North Shore University Hospital of Long Island Jewish Medical Center のアシスタントプロフェッサーとして、米国救急専門医 (American Board of Emergency Medicine, ABEM) を取得して、年間2,000例近い EBR 症例の診断と治療にあげられました。人種の垣

を越え、いわゆる北米型 EBR を実践できたことは、私の医師としてのあり方に大きな影響を与えました。また、ニューヨークでは、臨床と研究をバランス良く実践することができました。

近畿大学病院では救命救急センター長として救急集中治療医療を発展させるだけでなく、サステイナブルで持続可能な医療を提供できるようにしたいと考えています。そして、今後は日本の救急集中治療に貢献していく所存です。私が、教

室の主任教授という大役を任せられ、この様なやりがいのある職務で、患者のために働くことができるのも、千葉大学で教育を受けたか

国際医療福祉大学成田病院

予防医学センター 病院教授



並木 隆 雄 (昭 60)

らです。ものはな同窓会の皆様には、今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

(現国際医療福祉大学専務理事)のお力があつたからこそと思っております。まずは、お二人のご尽力に深く感謝申し上げます。さて、当方の赴任と同日

4月1日に国際医療福祉大学成田病院予防医学センターの病院教授として赴任しました。前任の千葉大学大学院医学研究院和漢診療学では、諸先生方に大変お世話になりました。約13年にわたり和漢診療学の責任者を全うできましたのも、同窓会諸兄先生方や地域の先生方からの患者様のご紹介に支えられたからと、深く感謝申し上げます。この度は、北総の地に移動して活躍の場をいただきました。ここに移れましたのは前呼吸器科教授の巽浩一郎先生のご推挙と千葉大学の附属病院長から成田病院長を歴任された宮崎勝前病院長

ます。建物は、ホテルのように豪華な作りになっており、ゆったりとした雰囲気です。経験豊かな医師と専門スタッフが適切なアドバイスをするのももちろんですが、成田空港からの至近距離であることから、インバウンドを見込んでの国別の専用レーンを備えていることが最大の特徴であります。当院が開業したのは、あの新型コロナウイルス感染症が日本に蔓延し始めた2020年春のため、せっかくのインバウンド向けの施設が、3年間ほとんど稼働していなかったとお聞きしています。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことで、本年度以降、外国の方々の利用も期待される所存です。人間ドックが終わった後は、空港を一望できる病院棟の最上階のレストランで豪華な食事がとれますので、それも楽しみの一つです。ご興味がありましたら、ぜひ成田病院の予防医学センターをご利用いただければと思います。

もう一つ付け加えたいことがあります。当院には漢方外来がありませんでしたので、国際医療福祉大学高木邦格理事長との面談時に直訴して、本年5月から始めることになりました。目

この度、東邦大学医療センター佐倉病院外科を退任し、令和5年2月1日にJCHO（日本地域医療機能推進機構）千葉病院長に就任致しました。どうぞよろしくお願致します。

私は、千葉大学を昭和59年に卒業し、第二外科（佐藤博教授・現先端応用外科・食道胃腸外科）に入局して研修医終了後、清水厚生病院、鴨川市立国保病院に勤務しました。帰局後に、「ポジットロンC」による肝腫瘍診断」のテーマで学位研究をし、その後、シニア出張として沼津市立病院に勤務しました。再度帰局



院長 岡住 慎一（昭59）

JCHO千葉病院

的としては漢方診療の普及とともに北総地区の地域医療に微力ながら貢献できればと考えてのことであります。漢方外来の開始においては、成田病院にいらっしやる千葉大の同門の方々のお声かけなどに励まされ

ました。また、各種準備におきまして、多くの方々のご理解をいただきましたことを申し添えたいと思えます。今後とものりのはな同窓会各先生方のご援助のほどよろしくお願ひ申し上げる次第です。

後は、磯野可一教授、落合武徳教授のご指導をいただき、食道外科医として修業し、2004～2005年に在外研究員としてミュンヘン工科大学病院・ドイツ癌研究センターに食道癌治療、PET解析研究の課題にて留学させていただきました。ドイツ人の手術の速さと周術期管理の効率性、勤務時間と休暇の厳守は、当時驚きでしたが、現在では働き方改革のお手本として見習いたいと思っております。2008年2月には、お声をかけていただいたのをきっかけに東邦大学医療センター佐倉病院の外科教授として赴任しました。以来、消化器癌、腹部救急疾患、炎症性腸疾患、高度肥満症に対する外科治療を中心に診療・研究し、学生・研修医教育・医療安全を副

院長として担当して15年間勤務しました。東邦大学の建学精神、理念、校風はとて新鮮で心地よく、それまでずっと公立で過ごしてきた私に欠けているものを教わった気がします。今回、任期満了にて退任した後に、JCHO千葉病院に勤務する機会をいただきました。千葉大学、東邦大学を通じてご指導と数々の研鑽の機会をいただいた先達の先生方、ご助力いただきました皆様、この場を借りまして改めて深く御礼申し上げます。

JCHO千葉病院は昭和26年に千葉社会保険病院として開設され、平成26年にJCHO千葉病院として新生

し、開院より70余年にわたり地域医療に継続して取り組んでおります。現在、健診（院内・院外バス出張）、急性期、回復期、在宅、慢性期、介護に一貫して対応し、高齢化社会の医療課題を担うという理念のもとに幅広く充実した医療を目指しています。来春竣工する新病院において、健診・透視センターの拡大をすすめ、さらに地域の皆様の期待と信頼にこたえていく所存であります。15年ぶりに千葉市で医療をできる喜びもひとしおに感じています。今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。

開催予定の行事をお知らせください

学会、研究集会、のりのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務局へお知らせください。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、6月、および9月です。

千葉県のはな会 令和5年3月 第23号

千葉県のはな会誌

〈特集〉今だからこそ考える海外留学
～新型コロナ、円安、物価高を乗り越えて～



Vol. 23 No. 1 2023年（令和5年）3月号

目次

表紙題字：井出源四郎氏

巻頭言	中村 眞人 (S54)	1
Essay		
若手研究者のリレーエッセイ	古矢 裕樹 (H24)	2
昭和の大学と学生～父子のアルバム～	三枝 一雄 (S32)	6
「古き良きもの」未来へ繋ぐ	磯野 尚 (S38)	13
〈特集〉今だからこそ考える海外留学 ～新型コロナ、円安、物価高を乗り越えて～		
海外留学の意義：「Road to France 1999」理想と現実	安西 尚彦 (H2)	18
海外留学のゆるいススメ	山崎 哲男 (H3)	23
「不確定な未来」となっている今こそ留学で学びを！	志賀 隆 (H13)	25
新潟県に部長として赴任して～医師数最低県が目指す医師確保策～海外留学支援等	松本 唯博 (H18)	28
「留年」から「留学」へ	吉村 健佑 (H19)	32
短評		
千の進	三枝かずを (S32)	34
黄水仙	関谷又三郎 (S38)	34
報告		
高鼻祭2022開催のご報告	2022年度高鼻祭実行委員会サール実行委員長 中山 智志	35
令和4年度総会開催のご報告	高橋 宏和 (H11)	37
令和5年度総会開催のご案内		39
2021（令和3）年度決算報告ならびに2022（令和4）年度予算案		40
2022年度 千葉県のはな会年会費納入いただいた方		42
千葉県のはな会会則		46
編集後記		47
投稿規定		47

表紙
「未来へ」
白髭居士（H3）

成田赤十字病院

病院長 青 墳 信 之 (昭59)



令和5年4月から成田赤十字病院の病院長を拝命することになりました。青墳(あおつか)信之と申します。僭越ながら就任のご挨拶をさせていただきます。私は昭和59年(1984年)に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学第2内科(現在の内分泌代謝・血液・老年内科学の前身)に入局いたしました。そこで血液疾患と出会い、黎明期であった骨髓移植(造血幹細胞移植)を経験させていただきました。当時から現在に至るまで伊藤国明先生、浅井隆善先生、王白銘先生、中村博敏先生、脇田久先生、比留間潔先生そのほか諸先輩がたには大変お世話になりました。

その後千葉大学医学部附属病院輸血部を経て米国留学の機会をいただきました。オハイオ州立大学並びに米国ZHOの計3年間の経験の後日本に戻り、千葉市立病院(現在の千葉市立青葉病院)を経て平成13年(2001年)から成田赤十字病院に赴任いたしました。千葉市立病院では同種末梢血幹細胞移植を精力的に進め、また成田赤十字病院赴任後は臍帯血移植を導入し、他施設との臨床研究を進めました。両病院とも現在も造血幹細胞移植の拠点として発展していることは喜ばしい限りです。さて私が成田赤十字病院赴任当時から長きに渡り、病院長は加藤誠先生で18年以上お勤めになりました。2018年に退任され、角南勝介院長が就任されました。私はその時に副院長となり病院の視点から地域に信頼され、いかに患者さんを紹介していただくかを考えてきました。この度院長を拝命し改めて病院の今後について考えてみました。

当院は91ある日本赤十字社の病院のうちのひとつであり、改めて日本赤十字社の使命である以下の言葉を大事にしていきたいと思っ

ています。「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。」この心を忘れてはなりません。この心があれば職員のパクトルは同じ方向を向くことができると思います。

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。」

この心を忘れてはなりません。この心があれば職員のパクトルは同じ方向を向くことができると思います。

よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

東千葉メディカルセンター

センター長 岩 立 康 男 (昭58)



令和5年(2023年)4月1日付で東千葉メディカルセンターのセンター長を拝命いたしました。千葉大学脳神経外科在職中は、おのほな同窓会の先生方はじめ多くの方々に大変お世話になりました。この場を借りまして、心よりお礼申し上げます。

東千葉メディカルセンターは2014年(平成26年)に救急医療、急性期医療への対応が急務であった山武市長夷隅医療圏での地域中核病院として開設され、千葉大学名誉教授の平澤博

之先生が理事長と初代センター長を兼務する形で就任されました。その後、平成29年には増田政久先生、令和4年には河野陽一先生が理事長に就任され、地域に密着した急性期病院として着実に発展してまいりました。この3年間は、救命救急医療に加えて、新型コロナウイルス感染症患者も積極的に受け入れてきており、地域にとって欠くことのできない病院となっております。一方で、病院管理運営に関しましては、まだまだ十分な体制が確立していただけないと、近隣地域住民の方々の信頼を大きく損ねる事態も招いてしまいました。今回、当院が抱えていた諸課題への取り組みの一環として、河野理事長の

と管理運営体制を強化する種々の組織改革が行われております。当センターには2つの大きな特徴があり、一つは最新の医療機器を備えた三次救急に対応した救命救急センターであること、そしてもう一つは千葉大学医学部との密接な関係を背景に東金九十九里地域臨床教育センターを併設している点です。多くの優れた医療スタッフがそろっており、近隣地域の医療施設はもちろんのこと地元医師会とも緊密に連携しながら、救急医療、急性期医療を行ってまいりました。加えて今後は、一般的な高度医療も積極的に展開していきたいと考えています。また、この地域では高齢化が進んでおりますので、糖尿病や心疾患の合併なども含め、高齢者の身体的特徴を鑑みた急性期医療の研究にも取り組んで参ります。

医学研修教育においては、救急医療・プライマリケアと各臓器別の専門医教育の両立を目指した研修体制の確立が急務であると考えています。優れた研修医、専攻医を多数獲得できれば病院全体として地域全体の活性化にもつながりますので、千葉大学との連携をさ

国際医療福祉大学成田病院

病院長・医学部教授に就任して 吉 野 一 郎 (九州大・昭62)



令和5年(2023年)3月31日を持って千葉大学大学院医学研究呼吸器病態外科学教授を退任し、同年4月1日より国際医療福祉大学に勤務することになりました。任期中の異動となりましたことを快くお許しいただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。千葉大学在職中には附属病院副院長として再開発・将来計画、経営、研究などを担当させていただきました。大学病院の運営を学ばせていただきました。また呼吸器外科・呼吸器病態外科学では多くの教室員の

らに強化して、このバランスが取れた研修体制の提供を目指してまいります。当院の使命は、救命救急を中心とした急性期医療と次世代を担う優れた若手医師の育成にあります。医療の進歩を地域の皆様に還元し共有していきますように、職員一同全力で取り組んでまいります。皆様におかれましては、今後も引き続きご指導ご支援のほどどうかよろしくお願い申し上げます。

日本専門医制度副理事長を拜命して

齊藤 光 江 (昭59)



それはまさに青天の霹靂でした。当初、専門医機構理事の選考委員を拜命していた小職は、女性理事を増やしたいという選考委員会の意向に従い、様々な職種で活躍している女性に声掛けをさせて頂いておりました。教育関係、法曹界、規制当局関係、行政、そして勿論医療界など、合計10名

30の診療科が千葉大学(呼吸器内科、糖尿病代謝内科、アレルギー膠原病内科、精神科、小児科)、東京大学、慶應大学出身教授陣を中心に運営されており、成田・印旛地区、茨城南部の地域の医療は元より、感染症対策の地域の拠点、がん医療拠点、アジア諸国との医療交流・連携などへの展開を目指しております。るのほな同窓会の皆様におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻をいただければ幸甚に存じます。

7月1日から活動開始となりましたが、8月には小職も所属する日本外科学会から、専攻医登録の件でいきなり苦情が入り、急遽意見交換の場を設けるなど、波乱含みの滑り出しとなりました。しかしながら、いきなりのこの経験は、小職の覚悟と活動の目標をいち早く持つことにプラスの効果をもたらしました。機構にこれまで不足していた透明性、現場とのコミュニケーション、そして内部においても多様な人々による十分な討論、過去に決定していたことに対しても再検討することなど、かなりの人員が入れ替わり、約3分の1が女性になった今期の機構だからこそ、社員である基本領域学会から信頼され、期待される組織になる

いて、他薦で副理事長を拜命するなどという、思ってもみない展開になったわけです。それまで、自身の専門領域である日本乳癌学会で専門医制度委員を務め、尚且つ、専門医機構に対しては、どちらかというところ批判的な見方をしていたために、このような抜擢も素直に喜ぶことができず、また周囲からも祝福というよりは憐憫の目で見られるというスタートでした。

現時点で抱えている課題は、サブスペシャルティ学会と機構の関係を明確にすること、ダブルボードをどのような基準でキャリアのどの時期まで認めるのか、シーリングの是非と改善方法、シニアになってからの専門医維持の基準、地域偏在・診療科偏在の解決策、多様な人々への配慮など山積みです。無給で任せられる理事が、自身の本業の傍らでできることは限られます。医療界とその外側も俯瞰できる有給の常任理事を置くことなども重要な課題です。微力ながら、国民に分かりやすく、尚且つ各学会がカバーする診療科の特性をわきままえ、皆が納得できる専門医制度になり、その結果として医療水準のみならず、患者家族にとって満足できる医療の提供ができる専門医が育成される制度設計の一端を担えればと考えております。どうか同窓会の皆様からも忌憚のないご意見、ご指導、そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

よ、精いっぱい働きたいと思っております。

第98回千葉医学会 学術大会

日時：2023年12月8日(金曜日) 15:00～17:15
会場：千葉大学るのほな記念講堂

特別講演

「ロンドン・ニューヨークそして千葉で学んだこと」

演者：服部 孝道 先生 (千葉大学 名誉教授/医療法人同和会 理事長)
座長：桑原 聡 先生



服部 孝道 先生

招待講演

「21世紀の脳神経内科学」

演者：桑原 聡 先生 (千葉大学大学院医学研究院 脳神経内科学 教授)
座長：服部 孝道 先生



桑原 聡 先生

- ※本講演会の座長は演者の先生に相互でご担当頂きます。
- ※本講演会は日本医師会生涯教育講座(1単位、CC:0)として承認されています。
- ◆参加費：無料
- ◆申込手続：不要 (Web配信はありません)

問合せ：千葉医学会
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部・るのほな同窓会館内
TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757
e-mail: info@c-med.org URL: https://www.c-med.org

受章の挨拶

瑞宝双光章

瑞宝双光章の栄に浴して

神田 敬(昭35)



図らずも令和4年秋の叙勲の荣誉に浴し、学校保健に長年ご指導、ご協力いただきました...

昭和35年千葉大学医学部を卒業、耳鼻咽喉科(北村武名譽教授)に入局し、北村武先生のご指導の下昭和40年大学院修了(医学博士号取得)...

参りました。

感覚器を対象とする耳鼻咽喉科にとって、学校保健における健康診断は単に耳・鼻・咽喉頭の疾患のスクリーニングをするのではなく、耳鼻咽喉科領域の感覚の発達程度をチェックすることに目的があります...

受賞いたしました。此度の叙勲と全ての榮譽ある賞は、児童生徒の健康安全の為、学校現場と医師だけでなく、歯科医師・薬剤師も連携して皆で課題に取り組んだ結果であり、私

一人の力でいただけただけではないと思っております。今後も児童生徒が健やかに学校生活を送れますよう、また学校保健に携わる多くの方々の方々の益々のご発展を心より祈念いたします。

令和6年版名簿発行のお知らせ

このたび、令和6年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。「安全」「正確」なデータ管理のため、同窓会を総合的にサポートする専門会社サラトに業務を委託しています...

- 名簿発行日：令和5年10月下旬
●体 裁：変型A4判(約470頁)
●名簿価格：3,000円(送料・税込み)

名簿作成委託先

株式会社サラト(兵庫県姫路市)のホームページ
https://salat.co.jp/

茨城県るのほな会
令和5年1月 第9号



目次

Table with 2 columns: Article Title and Author/Issue. Includes items like '巻頭言', 'エッセイ', 'EU (ヨーロッパ連合) 創設に功労のあった2人のチェコ人', etc.

最終講義

脳の原理

脳神経外科 岩 立 康 男 (昭58)



私は2023年3月31日に千葉大学医学研究院脳神経外科教授を定年退職いたしました。約6年半と比較的短い期間ではありましたが、ろのはな同窓会の皆様には多大なご支援とご指導を賜りましたことを感謝申し上げます。

3月22日には多くの方々にご参加いただき「最終講義」を行うことができました。新型コロナウイルスのパンデミックにより、1年前であったら望むべくもなかった現地対面での形式も取らせていただき、多くの方々々に直接お礼の言葉述べさせていたたく機会をいただけたことは幸せであったと思います。ご来賓の方々からの身に余るご祝辞、学生代表からの熱い謝辞、そして多くの部署からいた

面白がりながら、常に本質を視ようとする意識を持つていると、日常診療は「なぜ」「なぜ」「なぜ」と疑問の連続です。そして、問いを立てることによって物事の本質が見えてくるようになります。

【グリオーマ研究】

1990年に脳神経外科専門医を獲得した後、千葉県がんセンターにお世話になり、2つの大きな研究に携わることができました。「各種抗がん剤によるアポトーシス誘導の定量的測定」と「ラット脳腫瘍モデルに対する免疫遺伝子療法」です。

その最大の動機付けは「なんで効かない化学療法を続けているのだろうか?」というシンプルな疑問でした。アポトーシス誘導については、化学療法部の藤本修一先生と検査技師の広瀬正義さんにご協力いただき、フローサイトメトリーによるアポトーシス小体の定量的な検出法を開発しました。

その結果、グリオーマは通常のがんに比べて一般的に抗がん剤が効きにくいこと、p53やCDKN2aといったがん抑制遺伝子の状態と抗がん剤の効きやすさには関連があることが明らかになりました。また、オリゴデ

ドログリオーマはアポトーシスに陥りやすく抗がん剤も効きやすいことを、臨床面に加えてBio_vitroでも証明することができました。【免疫遺伝子治療の基礎研究】

免疫遺伝子治療に関しては、研究局長であった崎山樹先生、生化学部長の田川雅敏先生、後に浜松医科大学脳神経外科教授となられた難波宏樹先生たちにご指導いただきました。もともと免疫寛容の場

と免疫寛容の場には発生するグリオーマは免疫学的な攻撃にナイーブであり、その治療の中心は免疫療法になると考えています。現在は、脳神経外科の大学院生のメ

インテマとして、中山俊憲学長、本橋新一郎教授のご指導を仰ぎながら、MDM2細胞を用いた免疫療法を臨床応用するための研究を続けております。【正常脳の中のグリオーマ細胞】

佐隆樹准教授の指導をいただいで、プロテオミクス解析、プロテイン・アレイ解析、網羅的DNAメチル化解析などを行い、DNAの脱メチル化に伴う幹細胞化がグリオーマの悪性転化をもたらす最重要因子であることを証明しました。そして、腫瘍内低酸素環境がマ

イクログリアの浸潤をもたらし、そこから分泌されるTGFβがDNA脱メチル化の直接的な誘導因子となっていることも示しました。つまり造影領域が少しでも残れば、正常細胞の関与で悪性転化が急速に進んでしまうのです。ここから「正常なグリオーマ細胞はどのように働いているのか?」という大きな問いが芽生えてきました。

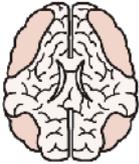
【脳の原理】 脳はニューロンと8割を占めるグリア細胞、アストロサイト、オリゴデンドロサイト、マイクログリアから作られています。ニューロンの活動はむしろアストロサイトやオリゴデンドロサイトの作るミエリン鞘に支配されており、またマイクログリアによるシナプスの生成と除去も重要な働きをしています。つまり、脳はニューロン

の電線のようなつながり方で働いているのではなく、生きたグリア細胞の膨大なネットワークとそれに伴う代謝活動によって支えられているのです。【脳はなぜシナプス構造を採用したのか?】という私の学生時代からの問いに対する答えは、グリア細胞に働く場を与え、環境の変化に応じて適切に脳を変化させて行くためだったので

です。【どうすれば脳を護れるか】 これらグリア細胞の大きな特徴は、非常に豊富な突起を有しており、その維持に膨大なエネルギーが必要になる点です。したがって酸化ストレスや炎症によって真つ先に脱落していくことになりま

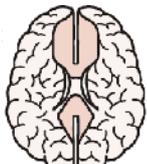
す。脳には「集中系」と「分散系」という2大システムがあります。集中系は、目的をもって課題をこなすときに活性化し、分散系はこれらの活動が沈静化したときに広く脳を結びつけるネットワークで、主に記憶の管理をしています。分散系は長いものが多く、グリア細胞の負荷が特に大きいため脆弱で、種々のストレスで神経脱落につながりやすいのです。一方で、集中系だけに偏ると、それも脳を疲弊させ神経脱落につながります。脳を護るためには、日々の暮らしの中で集中系と分散系のバランスをとった生活習慣を心がけましょう(図1)。

【集中系】



- ・何か目的を持って課題をこなす
- ・読書
- ・好きなことに熱中
- ・スマホでゲーム
- ・運動
- ・好きな音楽を聴く

【分散系】



- ・ぼーっと景色を眺める
- ・散歩
- ・過去の記憶を回想する
- ・レム睡眠
- ・入浴
- ・単純作業

「めぐり合った全ての方々への感謝を込めて」

私は、多くの方々に支えられてここまで歩んでくることができました。本当にありがとうございます。千葉大学退職後は、東千葉メディカルセンターにおいて

麻酔科医と医療安全

退職時に考えたこと

麻酔科学 磯野史朗(昭59)



千葉大学医学部麻酔科学教授を退職するにあたり、これまでに出会ったすべての方々には感謝の気持ちでいっぱいです。退職までの39年間をすべて振り返るとはできませんので、昭和の終わりころの医学部学生生活、麻酔科専門医取得までの6年間の臨床経験を、医療安全の観点から述べさせていただきます。

千葉県の上野市立北中学校(廃校になりました)、千葉県立大多喜高校を卒業し2年間駿台予備校でお世話になった後のあこがれの千葉大学医学部に昭和53年

職員の方々を力と力を合わせて、地域医療の充実と、次世代を担う若手医師の育成に取り組んでまいります。あのはな同窓会の皆様には、引き続きご指導ご支援のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

(1978年)に入学しました。大学生活は、予備校時代に比較して非常に大らかな授業ばかりで、地元勝浦湾での海釣り、自ら改造した車でのモータースポーツに明け暮れていました。公衆衛生の実習では、同級生たちと地元勝浦湾での腸炎ビブリオ生息場所の季節変動をテーマとし、実習用に採取した新鮮な魚を毎回みんなでおいしくいただきました。とても賢いテーマを選んだものだと今でも感心します。中学時代取得の柔道初段を活かすため伝統ある柔道部に入部し、試合とコンパだけは欠かさず出席する怠け者部員でしたが、柔剣道場での合宿、千葉大学主管東医体(東日本医科学学生体育大会)での個人戦3位、東医体(仙台)での

予想外団体優勝、優勝当日夜の盛岡(一!)でのわんこそば祝勝会などなど、楽しい思い出ばかりで仲間意識を育てていただきました。昭和59年に卒業後、8人の同級生とともに千葉大学麻酔科に入局しました。1例1例の麻酔管理経験はドキドキしながらもとても新鮮でした。本当に医者になったと感じた瞬間でした。麻酔科の先輩からは麻酔のことを、麻酔科ローテータの先生たちからは手術のことを部活の後輩のように指導していただきました。千葉大学では長く麻酔科ローテータ制度が続いたため、麻酔科と外科の敷居が低く、今でもお互いにコミュニケーションがとりやすいと感じています。手術室は最大9列あるいは10列稼働で、麻酔科スタッフ一人当たり2名の外科ローテータや入局者をS&Kするような体制でした。麻酔導入時の気管挿管困難、術中低酸素血症などの事例も珍しくなく、とても麻酔が安全とは言えない時代でしたが、そのような時こそ生き活きと活躍する先輩麻酔科医が頼もしく見えました。自動血圧計、観血的動脈圧測定器、人工呼吸器は数台しかなく、脳外科長時間手術、侵襲の高

い外科手術に限定されていきました。片手で麻酔バックを加圧し、反対の手で聴診器で血圧をマニュアル測定し、麻酔チャートに記入することを手術が終わるまで続けていました。人工呼吸器よりも熟練した麻酔科医による手動換気の方が優れていると考えられていました。もちろん、バルスオキシメータはなく、術野の血の色で低酸素血症を判断し、呼吸状態は自分の目と麻酔バッグの感触で判断するように指導されていきました。1年目の大病院では年間約80症例のみの麻酔経験と2か月間のICU研修でした。毎年、麻酔科では手術室で働く仲間の親睦を目的とした平日2泊3日のスキー旅行を行っていました。手術室は緊急手術以外閉鎖となり、外科系各科も同時にスキー旅行を行っていました。現在では考えられない古き良き余裕のある時代でした。

継続に関われたことも、手術室麻酔では経験できないことでした。3年目は松戸市立病院で、小児や心臓手術症例も多く年間約300例以上の麻酔管理を経験し、麻酔科医としての能力がかなり高められ、一人前になったような気持でした。4年目の君津中央病院では、手術そのものが非常に円滑で、麻酔の導入覚醒抜管の繰り返しでした。当時、並列麻酔は有能な麻酔科医ならできて当然と考えて、2列3列をより安全に管理する方法を工夫していました。そんな君津中央病院で、国内21例目の肝臓・胸骨・胸腹壁が結合している結合双胎児の分離手術を経験しました。小児外科、新生児科で交差循環の程度も含め徹底的に精査し、関連部署すべてのスタッフでリハ・サルを繰り返して万全を期しました。更なる準備や対応が必要かどうか、1年後輩の杉森邦夫先生と一緒に国立小児病院麻酔科部長であった宮坂勝之先生を訪ねました。宮坂先生から矢継ぎ早に様々な質問が飛んできましたがすべて対応済みでした。にもかかわらず、宮坂先生からは、「君たちやっちゃいかんよ」という言葉を最後にいただきましたが、予定通り

麻酔経験数が少ないことが2年目に千葉県救急医療センター出張時には心配でしたが、意外と救急の現場でもそれなりに動ける自分にびびりませんでした。全く経験したことのない重症救急症例を、救急外来、手術室、そして集中治療室で連

り君津中央病院で手術を実施し、二人は合併症なく約1か月後に元気に退院できました。チーム医療のすばらしさを実感した症例でした。入局5年目には水口公信教授からの指名で、今まで全く麻酔科医のいなかった茨城県の県西病院に1人で出張することとなりました。並列麻酔による効率的な手術室運用、病院近くの宿舎で365日夜間緊急手術への対応も行いました。入局6年目に大学に帰局し、麻酔科専門医を取得できました。たいへん楽しくかつ臨床の力を大きく高めることができた医師としての初期6年間でした。

しかしながら、約39年間の麻酔科医人生を経験した現在、若手麻酔科専攻医に同じような臨床研修の経験をしてほしいかという、決してYESではありません。この間、麻酔管理・全身管理に使用できる薬剤、医療機器、手技は大きく進歩し、低侵襲な手術方法が開発され、麻酔・手術ともに安全となりました。一方で、この進歩とともに、特に重篤な全身疾患のある高齢患者も手術対象になってきました。医療安全意識の向上と実践も、特に最近20年間の大きな変化でした。「すべて

の患者に対し安全かつ快適な医療を実現する」を診療科ミッションとし、全身状態の悪さを原因に手術をお断りすることはほとんどなくなった現在、39年前の麻酔科診療体制では、安全な周術期管理は不可能です。この医療安全の観点からは、磯野の麻酔科医初期6年間に大きな医療事故を経験しなかったのは運が良かったからと言わざるを得ないと感じています。結合双胎児分離手術の成功は、まさにチーム医療の勝利でしたが、一方で現在の自分であればやはり当時の宮坂先生と同じように慣れた施設での手術を勧めたようにも思います。特定看護師による麻酔業務補助、さらにそれを医師が並列管理することの是非までもが議論されている昨今、退職を迎える麻酔科医としては、全身管理に精通した麻酔科医を医療現場のニーズに対応できるだけでなく育成できなかったことは残念ですが、安全意識が高く、

全身合併症に応じた麻酔管理を実施できる麻酔科医を当教室から育成できたことは大きな誇りです。彼らが、今後の日本の周術期の安全性をさらに高めてくれることを信じて筆を置きます。

念ですが、安全意識が高く、全身合併症に応じた麻酔管理を実施できる麻酔科医を当教室から育成できたことは大きな誇りです。彼らが、今後の日本の周術期の安全性をさらに高めてくれることを信じて筆を置きます。

念ですが、安全意識が高く、全身合併症に応じた麻酔管理を実施できる麻酔科医を当教室から育成できたことは大きな誇りです。彼らが、今後の日本の周術期の安全性をさらに高めてくれることを信じて筆を置きます。

疾患モデルマウスと歩んだ40年

疾患生命医学 幡 野 雅 彦 (昭57)



コロナ禍のため約3年ぶりの対面(オンラインとのハイブリッド)での最終講義となりました。本来であれば医学研究院長及び附属病院長との日程調整をして開催日を決めるのですが、今回は未だコロナ禍でありまた私の希望もあり2月17日金曜日午前9時30分からという時間帯に設定させていただきました。この時間帯は通常はBasic Science Joint Meeting (通称BSJM)とスクローズドのミーティングが開催されています。基礎研究をおこなっている研究室が集まり、論文投稿前のデータについて主に若手の教員や大学院生が発表し議論することによりさらにブラッシュアップして良い論文にしようという場です。私自身もBSJMでお世話になり思い入れもあるため是非この場で最終講義を行いたいと思った次第です。

最終講義の内容は①卒後40年を振り返って(自己紹介)、②研究・共同研究の紹介、③教育・大学運営・国際交流について、④バイオメディカル研究センター及び動物実験施設の歩み、⑤メッセージ(まとめ)という構成にしました。特に動物実験施設については長年施設を切り盛りしてくださった伊勢川直久先生がやはりこの3月で定年退職を迎えられ、施設の歴史を知る者がいなくなるためこの機会にお話をさせていただきますことにしました。なお誌面の都合上最終講義の詳細につきましては千葉医学会誌に寄稿させていただきます。ご了承ください。

さて私は医学部卒業後直ちに千葉大学医学部小児科に入局しました。その後の師との出会いが私の将来を決定づけるものとなりました。当時小児科学教室を主宰されていた中島博徳教授(昭23)はすぐれた臨床医であるとともにすぐれた研究者でもありました。その医師・研究者としての姿(今でいうPhysician Scientist)に憧れ、また胎児期を含めた小児の成長・発達というダイナミックな変化に興味を持ち入局を決めました。そして入局した年にアメリカから留学を終えて小児科に戻られた河野陽一先生(昭48・現千葉大学名誉教授)と出会います。河野先生は熱く免疫学の研究について語り、私もそれに魅了されて小児科免疫アレルギー

グループ研究班を選ぶことになりました。その後関連病院で小児科医としての研鑽を積みことになりましたがここでは成田赤十字病院小児科部長福本泰彦先生(昭35)に出会います。福本先生には小児科医として患者・家族などとの接し方、また外来では私の隣のブースで診察されており時折私に声をかけて下さり「これがコブリック斑だよ」など小児common diseasesについて機会あることに指導いただきました。関連病院出張後大学に戻るようになりますが、せっかく免疫グループに入ったからには基礎から学びたいと思い河野先生の紹介で免疫研究部谷口克教授のラボに行くことになりました。そこで出会ったのが徳久剛史先生(昭48・元千葉大学学長、現千葉大学名誉教授)でした。徳久先生からはサイエンスの手ほどきから基礎免疫学、胚工学技術など「一から」指導いただきました。その後昭和62年に神戸大学の教授に栄転され私も同行しラボのセットアップなどを手伝いながら学位論文を仕上げました。さらに平成元年に河野先生、徳久先生との縁でアメリカ合衆国ワシントン大学(St. Louis)のStanley Korsmeyer Lab

に留学する機会を得ました。Korsmeyer博士は染色体転座から新しいがん遺伝子のクローニングをしてきた研究者で特にBcl-2, Baxなどアポトーシス関連遺伝子のクローニングと機能解析をした業績で有名です。ノーベル賞の候補にもノミネートされたことですが残念ながら54歳という若さで肺癌のため逝去されました。私の研究テーマは染色体転座を持つT細胞白血病細胞から新しいがん遺伝子をクローニングするといふものでした。当時は今のような次世代シーケンサーやデータベースはなく、世界中で新しい遺伝子のクローニングが競争となっていました。幸いなことに一番乗りでクローニングに成功しScience誌に論文を発表することができました。平成5年徳久教授が千葉大学医学部附属高次機能研究センター教授に異動になるタイミで助手として帰国することになります。そこで再びノックアウトマウス(KO)など胚工学技術を取り入れたラボを、一緒に立ち上げることになりました。ちょうどドイツから帰国された古関明彦先生(昭61・現理研チームリーダー)、千葉大学細胞分子医学教授)にES細胞の培養からノックアウト

マウス作製などの技術を学び研究室初めてのノックアウトマウスとしてBcl6 KOマウス及びZs1 KOマウスを作製しました。そしてBcl6 KOマウスの研究は徳久教授のライフワークとなり、また私はZs1 KOマウスを軸に研究を進めていくことになりました。このように振り返ってみますと卒後10年での出会いがその後の私の研究者・大学教員としての方向性を大きく決めることになったと思います。

研究・共同研究の紹介
帰国後前述のように胚工学の実験系を立ち上げながら自分の研究テーマを進めることになるのですが、やはり小児科医としての経験からヒトの疾患に直接かわるような研究をしたいという思いがありました。幸いなことに帰国して最初に作製したZs1 KOマウスは巨大結腸症を発症しました。巨大結腸症を呈する疾患としてはヒルシユスプルング病が有名です。ヒルシユスプルング病では先天的に腸管神経が欠如するために腸管機能異常をきたす疾患ですが、Zs1 KOマウスではむしろ腸管神経細胞数の増加が認められました。これはヒトのヒルシユスプルング病類似疾患の1つである腸管神経異常成症(Intestinal Neuronal Dysplasia, IND)のモデルと考えられ論文として発表しました。INDはヨーロッパで症例が多くまたその病態については感染などによる2次的なものかと考えられていたがこの研究により遺伝的に規定された1つの疾患であることが証明されました。さらにこの論文によりイタリア・ジェノヴァ大学からセリナーの依頼が舞い込み、また国際Hirschsprung病学会で招待講演を行いました。まさに1報の論文で世界と繋がったわけです。その後「腸管神経」[IND]は私の研究テーマのキーワードとなりました。小さな基礎研究室ですが私自身のメインの研究以外にも「疾患モデルマウス」をキーワードとして内外の先生方より多くの優秀な大学院生を派遣していただき、おかげさまで素晴らしい共同研究を行うことができました。改めて感謝いたします。なお誌面の都合上研究・共同研究の詳細につきましては千葉医学会誌で紹介させていただきます。また動物実験施設及びバイオメディカル研究センターについての話は千葉医学会誌でも紹介する予定ですが、詳細につきましては現在作成作業が進行しております。千

葉大学75年史」にも掲載予定です。

メッセージ

最後に約40年の大学教員生活のまとめとしてメッセージを送りたいと思います。これは教員生活から私を感じたことあるいは実践してきたことの個人の感想です。

1. 卒後10年が将来を決める(師との出会い)
2. 語学(英語・日本語も)、 \square は必須(情報収集、取捨選択)
3. 得意技を持つ
4. 直感を大切に(研究も人生も)
5. 歴史に学べ
6. 二刀流は当たり前、三刀流・四刀流も可能
7. 言い訳は聞く
8. 緩・急、オン・オフを意識
9. 想像力・創造力・破壊力

最初の6つは特に学生さんや若手医師・研究者の皆さんへのメッセージです。コロナ禍でなかなか対面での学会には参加できない状況でしたが、人との出会いの中から将来の人生へのヒントが生まれてきます。そのためには語学力や情報の収集や取捨選択する力も必要です。臨床・研究においてはアピールできる得意技



写真 最終講義風景

を身につけることが大切です。7番は普通「言い訳はするな」になると思いますが、私はこれまで学生やスタッフに接するときはできるだけ言い訳を含め相手の話をよく聞くことを心がけてきました。聞くことによりその人の抱えている問題点、あるいは研究室内や私自身に潜んでいる問題点に気づかされることがあるからです。最後に、研究あるいは臨床現場においては常に「想像力・創造力」を働かせることが求められていますし、新たにブレイクスルーするには「破壊力」も必要となります。千葉大学医学部学生、若手医師・研究者が多様な才能を出し合うことによって化学反応が起き千葉大学医学研究院・附属病院がさらに活性化し世界へとメッセージを発信し続けることを祈っています。

付記

最終講義のポスター及びスライドのバックに海の写真を使用したところ多くの真実使用しなかった方々から「先生、釣りをされるのですか」という質問をいただきました。

きました。留学から千葉に戻ってきてしばらくしてから釣り好きの大学院生らに誘われて本格的に海釣りを始めました。研究の合間に夜中に千葉を出て早朝港から船に乗り水平線から昇る朝日を見てリフレッシュされました。状況を見ながら仕掛けも実験も創意工夫が必要、釣れている時(データの出てくる時)はひたすら集中する、などと勝手に研究と釣りには相通じるものがあると解釈していました。ちなみにポスター及び最終講義スライド最初の写真(写真・最終講義風景)は昨年暮(2022年12月29日)に東京湾にカワハギ釣りに行った時に撮影したものです。釣果は16匹、15人中で竿頭(21匹)は逃しましたが2位の成績でした。



神奈川るのほな会 令和5年 33号

るのほな・かながわ(令和5年3月31日)

るのほな かながわ

神奈川るのほな会・千葉大学るのほな同窓会神奈川県支部 令和5年 33号

るのほな・かながわ 第33号 目次

巻頭言	神奈川るのほな会、やはり継続がよいと思います	三科孝夫	2
会長挨拶	ホームカミングデイに参加して	西川哲男	3
総会	令和4年度総会開催報告		6
	令和4年度神奈川るのほな会庶務報告		7
	令和3年度決算報告・令和4年度予算案		7
	総会写真		8
新任挨拶	ご挨拶申し上げます	末永忠広	9
医学トピックス	第57回日本胆道学会学術集会開催報告	中郡聡夫	10
	神奈川るのほな同窓会の皆様へ	高相晶士	12
	コロナ禍における小松会病院の取り組みと医師会・病院協会での役員活動	小松幹一郎	13
病院めぐり	聖隷横浜病院	野澤聡志	16
	帝京大学医学部附属溝口病院	三浦文彦	18
身辺雑記	〈役に立たないコーナー〉	三科孝夫	20
	日々の診療	飯沼克博	22
	愛犬サスケ	高山篤也	23
表紙の写真			26
計報			26
事務局より			26
作品募集			26
神奈川るのほな会期			27
編集後記			28

編集・中村隆次/写真・小堀朝明

るのはな同窓会地区会長挨拶

千葉県るのはな会会長を拜命して

千葉県るのはな会

会長 中村 眞人 (昭54)



令和4年5月14日に開催された千葉県るのはな会総会で、第五代の千葉県るのはな会会長を拜命いたしました。

千葉県るのはな同窓会は、千葉大学医学部るのはな同窓会の千葉県支部で、平成8年4月に設立されました。初代は渡辺武先生で、本部るのはな会会長と千葉県医師会会長も務められた方です。二代目の大濱博利先生も、千葉市医師会理事・小児科医会会長や県ヨット協会の重鎮など務められました。三代目の三枝一雄先生は、千葉県医師会で長年副会長を務められました。四代目の秋葉哲生先生は、千葉県支払基金の審査委員長を務められました。以上、先輩方を見ても、同窓会だ

ところで、同窓会は、自身のアイデンティティを語る上で重要な物です。同窓会は、生きてきた自身の歴史として、家族と同じように大切な物のひとつです。

同窓という母校の素晴らしい伝統を共有する共通認識を持つことで、各世代がつながる事が出来ます。そのつながりを、たて・よこ・ななめと、縦横無尽に広げ、世界に向けて千葉大学ありと誇れるようになればと思います。同窓生皆様のご指導・ご鞭撻と、多大なるご支援を頂きながら、同窓会活動に鋭意取り組んでいきたいと考えております。

けでなく多方面で活躍され、偉大な足跡を残された方ばかりです。五代目の私には、何も誇れるものはありませんが、先輩方の残した足跡に忠実に従い、一歩だけでも前進できるように頑張りたいと思います。また、本部るのはな同窓会の手となり足となり、同窓会の活性化に努めたいと思います。

千葉県支部るのはな会 (四金会) 会長就任挨拶

千葉県支部るのはな会 (四金会)

会長 安西 尚彦 (平2)



この度、前任の白澤浩先生(現副会長)からるのはな同窓会千葉県支部るのはな会(四金会)会長を引

き継ぎました。千葉大学大学院医学研究薬理学の安西尚彦です。全国るのはな同窓会ではこれまで前任の白澤先生のおあとを受け、総務担当理事を拜命させて頂いております。全国るのはな同窓会の起源とも言えます伝統ある千葉県支部るのはな会(四

金会)の会長を拜命しましたことは千葉大学医学部の卒業生として、また母校の現職教授として大変光栄なことであるとともに、その役割の重さを痛感しております。

千葉大学支部るのはな会を立ち上げ、そして継続発展させて来られた数多の諸先輩方に敬意を表するとともに、大学そしてそれを取り巻く社会環境や時代の変化に合わせて、次の世代に引き継ぎ、さらなる発展の基盤とするべく、COVID-19パンデミックによる中断を経て、前任の白澤先生が打ち出された「四金会」の理念に基づく支部運営を、ポストコロナと言え今、大学から取り組むことで、全国るのはな同窓会をお支えしたいと思います。

井出源四郎先生(昭19)のお言葉「凡そ本学に席を得て学を志す者が年令を問わず、専門分野を問わず、又卒業大学の違いを超えて、折に触れ一堂に集まり旧交を暖めるもよし、匆忙の生活の中であればこそ同窓親睦のための数刻を持ち得ることは素晴らしいことだと思っております」に従い、(1)他大学・他学部ご出身の先生方の積極的なご参加、(2)

教授以外に准講義や助教、あるいは後期・初期研修医、学生さんの参加を募る、そして(3)大学周辺の様々な状況を全国の同窓会員に広くお伝えし、全国同窓会との連携を密にし、「千葉大学」ブランド力強化、などに取り組みたいと思います。

具体的には、現在千葉大学支部るのはな会(四金会)は全国るのはな同窓会の理事だけで構成されておりまして、新たに運営委員会を組織し、様々な方々に運営委員にご就任頂き、同窓会活動に参画してもらおうことを目指すと同時に、奇数月の第四金曜日に同窓会館にて昼食会を開き、大学支

部としての活動の提案と意見交換を行いたいと考えております。学内の諸活動への財政的支援をしながら、その活動実態が認識されていない状況にある同窓会を、四金会運営委員会の活動を通じて、学内における存在感を高めるとともに、同窓会の継続的な運営の基盤を作ることが出来れば、と考えております。

そして千葉大学の理念である「つねに、より高きものをめざして」を地で行く大学支部でありたいと思います。これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

栃木県るのはな会 会長就任挨拶

栃木県るのはな会 総会開催

栃木県るのはな会

会長 森本 直樹 (平3)



令和5年(2023年)1月、栃木県るのはな会の会長を前任の十川康弘先

木厚生連下都賀総合病院(昭43、川村功院長)に勤務となり初めて栃木県に参りました。その後3年間の静岡県立静岡岡かんセンター勤務を挟み、足掛け21年の栃木県生活となりましたが、栃木県在住のるのはな同窓会の先生方はもちろんのこと、多くの同窓の先生方に日頃より大変お世話になっており、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

栃木県るのはな会総会もご多分に漏れず、コロナ禍により令和3年は中止を余儀なくされ、令和4年はオンラインでの開催といたしました。今年令和5年1月21日、十分な感染対策の元、3年ぶりに現地+オンラインのHybrid形式にて開催することが出来ました(現地16名、オンライン5名)。総会終了後には、本学より加藤直也消化器内科学教授(昭61)をお迎えし、最新の治療によるHCC撲滅に向けた取り組みや進行肝臓に対する複合免疫療法などについて、消化器内科以外がご専門の先生方にも大変解りやすくご講演をいただきました。会場では、やはりリアルで対面しての聴講やディスカッション、会話は盛り上がりとても楽しいという声が多く聞かれ

生(昭55、前上都賀総合病院院長)より引き継がせていただきました平成3年卒現在自治医科大学消化器内科勤務の森本直樹です。私は千葉大学卒業後第一内科(現消化器内科)に入局、平成11年(1999年)大学院卒業後に医局人事にて栃

話は盛り上がりとても楽しいという声が多く聞かれ



予定していた時間もあつという間に過ぎ、皆で再会を約束してお開きとなりました。

栃木県るのほな会には現在102名の会員がおられますが、総会にご参加をいただけるのはやはりある程度年齢が高い方が多い傾向があります。かくいう私も若かりし日、先輩にお誘いを受けながらご無沙汰してしまっていたのを思い出します。各世代各個人で求めるもの楽しいもの大切なものは少しずつ異なると思いますが、会員の皆様とともに、同窓の仲間が笑顔に話し共有する時間の中で笑顔

になれるような場にしていただけら良いなと思つています。皆様のご協力ご支援をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

写真右から
前列…安藤克彦(群馬大・昭60)、須田啓一(昭52)、森本直樹(平3)、加藤直也(昭61)、齋藤弘司(昭43)、吉住博明(平11)
後列…宍戸忠幸(山梨医大・平8)、鎌迫智彦(平25)、戸邊豊総(旭川医大・平元)、知久毅(平元)、倉田秀一(平6)、北林宏之(平12)



各地のほな会 だより

東京のほな会

令和5年新年会開催報告

2023年(令和5年)1月14日(土)、東京のほな会新年会を銀座アス

ター御茶の水水館にて開催いたしました。

今年も立食形式では無く、スクール形式のレイアウト・お弁当形式にするなど、万全の感染症対策の下、80名以上の先生にご出席いただきました。

特別講演では、南野徹先生(平元、順天堂大学循環器内科教授)が「老化の抑

器内科教授」が「老化の抑制は可能か?」と題して、興味深いお話をしてくださいました。

Short Speechでは、松尾幸治先生(平6、埼玉医科大学精神神経科・心療内科教授)、横田元先生(平17、千葉大学画像診断・放射線腫瘍学講師)と米国ロックフェラー大学留学中の高橋麻衣先生(平27)も現地時間早朝5時過ぎからオンラインでニューヨークでの研究の日々についてお話をしてくださいました。

千葉大学現役教授の皆さま、平成25年卒以降の若手・現役学生がそれぞれ10名以上ご参加くださるなど幅広い年代がご参加いただき、活気のある懇親を深めることができました。

ご協力いただきました皆さま方、本当にありがとうございました。

夏の総会は、7月8日(土)開催です。

こちらのご参加もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

※集合写真は一瞬だけマスクを外し、無呼吸で撮影しました。

(岡本和久)

令和5年度 神奈川のほな会 学術講演会

(共催：住友ファーマ株式会社)

日時：令和5年7月8日(土) 18:00～
場所：TKP横浜会議室 6階 ホール6A
TEL：045-322-1361
会費：3,000円

【事前申し込み】申し込み締め切り 2023年7月6日(木)
URL：https://onl.bz/iPA5vky (申し込み先)

学術講演：西川クリニック院長・横浜労災病院名誉院長・神奈川のほな会会長 西川 哲男先生
特別講演：千葉大学大学院医学研究院院長・千葉大学医学部長 三木 隆司先生

問い合わせ先：
医療法人 西川クリニック
TEL：045-534-8539
e-mail：nclin.toiasase@gmail.com

令和5年度 東京のほな会 総会

日時：令和5年7月8日(土) 16:00～
場所：銀座アスターお茶の水水館(新お茶の水ビル21階) JR御茶ノ水駅 聖橋口
会費：10,000円

特別講演：東京女子医科大学 循環器内科 教授 山口 淳一先生(平5)

ショートスピーチ：
①西葛西・井上眼科病院 副院長 国松 志保先生(平5)
②千葉大学医学部 形成外科 診療准教授 秋田 新介先生(平14)

問い合わせ先：
東京のほな会事務局(船山)
TEL：03-5666-1334
e-mail：gfunayama@towakai.com

ク ラ ス 会

三五会 (昭35)

これまで新型コロナウイルス禍によって中断されてきた三五会であるが、国の規制も緩やかに多数での会食も可能とのことで、4年ぶり、令和になって始めてのクラス会を令和5年3月5日12時より東京ステーションホテル・アトリウムにて開催することになった。出席者は、遠くは鹿沼や館山から列車に乗り継いできた人、また丁度、東京マラソンで混雑する中を車いすで元気に現れた人もおり、全部で14名。年々淋しくなってきたが、まだ終息には至っていないコロナの流行、さらに、この4年間に亡くなった方が10名の多きに達することを考えれば、会員の40%の参加率はまずまずであらう。

開会宣言についてご逝去の方を悼み黙祷、さらに、慶事としてこの4年間に4名の方(三橋稔、中田益光、佐伯陳哉、神田敬、いずれも瑞宝双光章)に叙勲の栄が授けられたことが報告され、みんなで一緒に喜びを分かち合った。ついで、三五

会幹事代表の三橋稔君より御挨拶、全員での乾杯。4年間の空白を埋めるように笑顔と大声でのしばしの歓談後、ひとりずつの近況報告を頂いたが、ほとんどの人が今も医業に携わっており、中には、週6日患者を診ている方、全国を手術や講演で駆け回っている方、車いすで患者を朝7時から見ている方、ホテルまで埼玉から車を運転してきた方、太極拳の師範をしている方、

これから世界中を廻る旅を計画している方等々、みな元気で充実した生活を楽しんでいる様子で、年の割には丈夫かなと思っている私もみんなに負けないよう頑張らなければならないと実感した次第である。

今回出席の方はもちろん、出席できなかった方もいまだから予定して下さって、ぜひ大勢の方にお集まり頂ければ幸いです。最後にるのは同窓会参与の大井利夫君より旧本館の閉館に当たり「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」のDVD(約50分)が作成されたが、申し込みがまだ予定に達せず、大分残っているとのこと。私も拝見したが、本当に懐かしい映像でいっぱいであった。DVDはるのは同窓会の寄付の返礼として求められるのでぜひご寄付頂き、お手元に保存下されば有難いとのメッセージがあったことを付記させていただきます。



写真右から
前列・三好ひそか、成田静子、神田敬、三橋稔、佐伯陳哉、谷嶋つね、貞永嘉久、後列・佐藤甫夫、高橋徹、増田善昭、永田一郎、村田光範、河野宏、大井利夫
(増田善昭)

さんろく会 (昭36)

去る10月16日、コロナによる中断で、3年振りにクラス会が行われ、10名が懐かしい楽しいひと時を送りました。3年前の26名よりは大幅に減りました。コロ

ナのため飲食を伴う会には出席できない者が数名いたという事情もありましたが、全員85歳を越え、年齢の重みも感じました。挨拶には大日本の将来を憂う意見は出ず、現状の紹介が主でお互いの無事を喜び合いました。あと何年か、有意義に過ごしたいものです。我々は医学部専門課程に試験なしに進学出来るストレートコースが出来て入学した最初の学年です。それまでは大学に入学し一般教養課程を修了してから、医学部専門課程の試験を受けて進学する制度でした。60名が入学、2年後に20名が加わりました。女性が8名、当時は女子医学生は少なく、前後の学年の中では多かったです。進学試験がなくなれば勉強は疎かになる、評判をおとしたようです。専門課程に進学してからも、医師になつたら仕事がついので、今のうちに遊んでおけとの助言がありました。当時は国内の医学部の定員は約三千名、今の約三分の一だったので、医師になつてからの多忙は仕方なかったでしょう。学科の履修も講義終了後、最終学年までに試験を受けて単位をとればよいという、学生に親切な制度でした。当時は一年間の

インターン制度があり、医師になれるのは今よりも一年遅れました。年二回あった国家試験も恐らく今よりははずっと易しく、千葉大学では全員合格が多かった。当時の診療には今と比べると、内視鏡、超音波(エコー)、CT、MRI等はなく、経皮生検も少ない、血液検査の種類も本当に限られていました。確定診断には剖検の占める位置が大きかったと思います。

上がつてゆく、その道は将来への夢と繋がります。胸がときめきました。大きな建物は少なく、東洋一とも言われた大病院が聳え立っていました。今度壊されると聞きとても残念です。



写真右から
前列・長谷川幸子、藤塚夫人、黒田健昭、谷合明、谷合夫人、三宅伊豫子
後列・鈴木光、副島訓子、藤塚立夫、野尻雅美、長谷川修司、野本一夫
(鈴木光)

38 会 (昭38)

去る令和4年10月22日、
猖獗を極めるコロナのため
に、過去2回見送られてい
た昭和38年卒業生のクラス

会(38会)が東京芝の「と
うふ屋うかい」にて開催さ
れました。出席者は総勢24
名でしたがその内お二方
の婦人は、故原紀道、野本
高志君の奥様方で彼らが亡
くなった後も参加下さって
おられます。他の3人は付
き添いの親族で、19人の同
級生が集まったことになり
ます。なかでも体調が万全
でなかった大木勲、木下昌
の両君は結城と千葉から車
で送迎の出席でした。

思い起こせば、試験を乗
り越え、希望に目を輝かや
せた60数名が木造の事務棟
の前に集まったのは昭和32
年の春でした。張り出され
た合格者のリストに自分の
名を確認し、誇らしく昂揚
された気持ちに満たされた
ことは忘れることが出来ま
せん。その2年後には、他
大学で厳しい2年間の医学
進学課程を終了した20数名
が加わり、昭和38年(19
63年)春に、計88名が医
師としての道を歩み始めま
した。その後、それぞれが
選んだ様々な分野で、人と

社会、あるいは、医学に貢
献する道を歩み続けて60年
が過ぎ去りました。今回筆
者が写した各人のポートレ
イトにもそれぞれの歴史が
刻まれているようにも思え
ます。

ちなみに、このクラス会
に常に出席する最年長者の
沖田正彦君は現在91歳です
が、昭和38年卒のクラスの
年齢分布は幅広く、現役
早生まれから元陸軍中尉に
至るまで様々な個性的な人
材により構成されています
。それだけに、お互いに
刺激し、影響し合いながら
人生の最も大切な時期であ
る大学生生活を過ごすこと
が出来たのではないでしょ
うか。しかし、年々歳々人
同じからず、同級生の半数
以上が既に鬼籍に入り、こ
の度のクラス会から今日ま
での間にも林直諒君の訃報
が届きました。

我々のクラス会38会は、
卒業直後のインターンの時
期が過ぎて数年たった頃に、
東京で初めて開催されたこ
との意見は一致しているも
の、その開催日時、場所
などについての記録はなく
その後の集まりに関して
明確な記録はありません。
しかし、地方に在住してい
た会員が現役として活躍し
ていた頃には、それぞれの

地で開催し、2泊3日程度
の交流を楽しみました。そ
の場所は、東京を始めとし
て箱根、鬼怒川、那須、長
野、甲府、山形、那覇、紀
州白浜などで、特に嶺井進
君が活躍していた那覇には
3回も出かけ、一日はゴルフ
組と観光組に分かれ旧交を
温めたものでした。しかし、
級友一人に負担がかかるこ
の開催形式は取られなくな
り、会員が最も集まりやす
い東京、それも場所を定め
て毎年集まろうということ
になりました。約10年前か
らは、東京近郊に在住の沖
田正彦、尾崎賢太郎、加藤
友衛、香西襄、三木亮君が
幹事を勤め、尾崎君逝去の
後は木下(旧姓石田)敏子
君が加わり、毎年の雑務を
担当してくれています。

今回も、参加者中最高齢
の沖田正彦君の発声による
乾杯から宴が始まり、恒例
の参加者による近況報告が
なされました。少し冗長に
過ぎるもの、もう少し話し
ても、と思うもの、それぞ
れの学生時代を彷彿とさせ
る個性そのままのスピーチ
に、亥鼻で過ごした青春時
代を懐かしんだことでした。
中でも、学生時代からセツ
ルメント活動を行っていた
小島弘敬君の新宿地域の施
設における経験についての

お話しは、強いインパクト
を残すものでした。
二時間の制限時間内に会
食を終えた後は、恒例のラ
ウンジで、さらに打ち解け
た会話を楽しんだ後に記念
撮影を行い、三々五々帰途
につきました。
私共昭和38年卒組は、何
人かの発起人のもとで、ま
とまった行動が出来るグ
ループでした。その一つの例
が卒業アルバム制作です。
専門課程一年、当時の呼称
では学1の頃に加藤友衛君
の発案で卒業アルバム制作
のために毎月200円ずつ
の積み立てが始まりました。
当時のアルバムは、街の写
真館が撮りためた写真のプ
リントをただ貼り付けたも
ので、大変高額でかさばる
ものでした。その形式に代
わって、普段撮りためた学
生生活の動きのあるシー
ンを主体にアルバムを構成し
、さらに、我々の学生時代の
社会の出来事を記事として
取り入れようということに
なり、その結果、故原紀道
君(白鯨社)装丁による当
時としては珍しいグラビア
刷りのものが出来上がりま
した。このアルバムの一部
をのとはな同窓会に寄贈し
保存されることを願ってお
りましたが、最近の加藤友
衛君の調べでは、保管され

ていないことが判明致しま
した。現在、残っていた最
後の一部を千葉県のはな
会役員にお預けし、来年の
150周年記念誌発行の参
考資料に供した後に、図書
館に移管することを検討し
て下さるようお願いいたし
ております。
また、卒業後30年の時点
で、大木勲、加藤友衛、故

原紀道君が昭和38年卒記念
誌を発行してくれました。
今読み返してみても、楽し
いページ構成で、私達38会
メンバーにとっては友を想
い、己が壮年時代を反芻す
る貴重な糧になっておりま
す。あれから更に30年が過
ぎ去った2023年、10月
の38会ではどのような企画
が出るのでしょうか、楽し

みに致しております。
写真右から
前列：長山忠雄、玉置哲也
夫人、木下昌、沖田正彦、
木下敏子、大木勲、寺島市
郎、鳥羽剛、大津裕司、三
木亮
後列：加藤友衛、大木毅(大
木勲三男)、浅野高、玉置哲
也、畔田浩、香西襄、楯二
郎、谷修一、宮下久夫、小
島弘敬、加藤友衛夫人、故
野本高志夫人(美知子)、故
原紀道夫人(和)、栗原伸夫
(玉置哲也)



原紀道君が昭和38年卒記念
誌を発行してくれました。
今読み返してみても、楽し
いページ構成で、私達38会
メンバーにとっては友を想
い、己が壮年時代を反芻す
る貴重な糧になっておりま
す。あれから更に30年が過
ぎ去った2023年、10月
の38会ではどのような企画
が出るのでしょうか、楽し

みに致しております。
写真右から
前列：長山忠雄、玉置哲也
夫人、木下昌、沖田正彦、
木下敏子、大木勲、寺島市
郎、鳥羽剛、大津裕司、三
木亮
後列：加藤友衛、大木毅(大
木勲三男)、浅野高、玉置哲
也、畔田浩、香西襄、楯二
郎、谷修一、宮下久夫、小
島弘敬、加藤友衛夫人、故
野本高志夫人(美知子)、故
原紀道夫人(和)、栗原伸夫
(玉置哲也)

お 知 ら せ

のとはな同窓会事務局では、卒業年次別クラス
名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所
ラベルをご希望により作成いたします。詳細は同
窓会事務局にお問い合わせください。

研修プログラム

千葉大学医学部附属病院

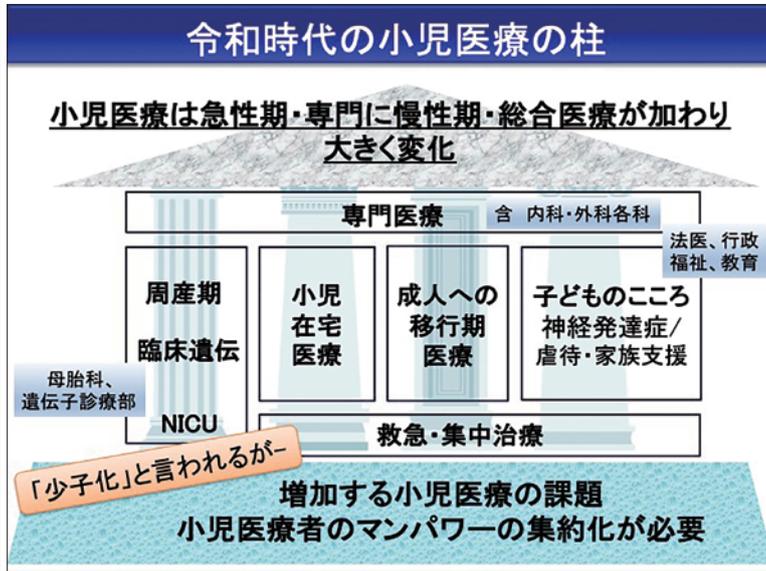
小児科

千葉大学大学院医学研究院 小児病態学

教授 濱田 洋通 (平2)

子どもの人口が減少して
います。国も成育基本法
(2019)、医療的ケア
児支援法(2021)、こ
ども庁の創設(2023)、
さらに今「異次元の少子化
対策」と称して予算の投入
を考えています。加えて
COVID-19パンデミック
による大規模な社会隔離と
感染対策によって感染症は
激減し、小児医療は「多く
の子どもの感染症診療が
中心」から「生まれてくる
貴重な子ども達の生涯に寄
り添う医療」に変化してい
ます。

少子化なのですが子ども
ひとりひとりに必要となる
マンパワーは増大していま
す。出生前診断・新生児医
療の進歩で生まれる前から
家族への説明、複数の疾患
を有する新生児の救命と在
宅医療の提供、稀少疾患
の診断と治療(不治の病と
されてきた疾患の治療法が
次々と開発されています)。



発達障害や子ども達のこ
ろの疾患へのケア、虐待や
不適切養育から子どもを守
る、15歳を超えても医療が
必要な方々の成人科との連
携、など、専門性だけでなく
総合的医療や多職種連携
のスキルも必要で、「一人前
の小児科医師になる」こと
は以前より時間と経験が必
要になってきました(図)。
小児医療には女性医師の
参画が必須ですし、男性医
師は子どもに恵まれたなら
子育てへの参加も望まれま
す。知識だけでなく、子ど
もの気持ち、子ども側に立っ
て守れること、そういった
感情の醸成も大切だと思
います。自分のライフイベ
ントにに応じて医療機関と地域
医療、大学院等を行ったり
来たりして細く長く学ぶこ
とを推奨しています。

医学生は4週間の臨床実
習、初期研修医は最低1ヶ
月の初期研修プログラム、
小児科専攻医は3年間の専
攻医研修において、それぞ
れの段階によって指導しま
すが、総合診療がある程度
できるように小児医療の
様々な場を見せる、実践さ
せる、ということの基本コ
ンセプトにしています。ま
た、「専門医はゴールでは
なくスタートだ」というこ
とを専攻医にはうるさく
言っています。現在の複雑
な小児医療のニーズにある
程度応えることができるよ
うになるのに15年くらいは
かかると思っています。細
く長く学び、ある時期に自
分の臨床疑問に答える時間
として大学院や社会人大学
院への入学を勧めています。
皆様の診療科と同様ですが、
「医師として自立して歩め
るようになること」が研修
のゴールです。
やりがいはいはあり、やるべ
きことは溢れています。医
学生、研修医・専攻医の諸
君、興味があれば是非連絡
を下さい。
千葉大学病院小児科…
講師…塩濱直(平15)、講
師…高谷具純(平15)、診
療講師…遠藤真美子(平
12)、診療講師…日野もえ
子(新潟大・平14)

東京都立病院機構 がん・感染症センター都立駒込病院

名譽院長

神澤 輝実 (弘前大・昭57)

東京都立駒込病院は明治
12年に駒込避病院として設
立され、昭和50年に新病院
を開設し、平成21年にが
ん・感染症センターとなり
ました。そして、令和4年
に地方独立行政法人東京都
立病院機構に移行しました。
815床のがん専門病院で、
都道府県がん診療連携拠点
病院として都におけるがん
医療ネットワークの中心的
役割を果たしており、がん
登録件数は4758件(令
和2年)で都内3位です。
当院の特徴は、がんセン
ターでありながら充実した
非がん部門の10診療科を有
し、この総合診療基盤を生
かして合併症を有するがん
患者さんにも最適ながん治
療を提供できる点です。
医師臨床研修制度に関し
ては、昭和53年に臨床研修
病院に指定され、現在は基
幹型臨床研修病院として内
科系プログラムと外科系プ
ログラムを設置して研修医
教育に当たっています。内
科系プログラムは、消化器、
呼吸器、循環器、脳神経、



特徴で、内科疾患を広く学
ぶことが出来ます。外科系
プログラムは、食道、肝胆
膵、胃、大腸、乳腺、呼吸
器の外科全5診療科を24週
かけてローテートし、腹腔
鏡手術、ロボット支援下手
術、胸腔鏡下手術等多くの
手術に参加出来ることが特
徴です。鼠径ヘルニア根治
術、中心静脈カテーテル留

置術等の術者として経験を積む機会もあります。基本的診療能力の習得を目的とした共通プログラムとして、総合診療科での外来診療の経験、麻酔科での気管挿管を含む気道・呼吸管理や血行動態管理の習得を必須としています。精神腫瘍科ではリエンチームの一員として研修します。小児科及び産科は連携している都立病院で学びます。

入院で経験する症例は、入院の7割を占めるがんが中心ですが、感染症を含む種々の非がん疾患も多く受け入れており、専門医療機関ならではの先端医療を学ぶ事が出来ます。毎年1月に開催される院内症例報告会では、研修の成果を発表して指導医や先輩方のフィードバックを得られる体制を執っています。学会・論文発表の機会にも恵まれており、特に英文論文作成を推奨しています。

当院で経験する症例は、入院の7割を占めるがんが中心ですが、感染症を含む種々の非がん疾患も多く受け入れており、専門医療機関ならではの先端医療を学ぶ事が出来ます。毎年1月に開催される院内症例報告会では、研修の成果を発表して指導医や先輩方のフィードバックを得られる体制を執っています。学会・論文発表の機会にも恵まれており、特に英文論文作成を推奨しています。

取得できるように体系化されています。令和3年度の

研修及び東京医師アカデミーに関心がある方は是非ご連絡ください。
(連絡先:総務課病院見学担当、メールアドレス: kml-byoinkengaku@tmhp.jp)

研修及び東京医師アカデミーに関心がある方は是非ご連絡ください。
(連絡先:総務課病院見学担当、メールアドレス: kml-byoinkengaku@tmhp.jp)

研修医だより

耳鼻咽喉・頭頸部外科

岸野愛子(平31)



私は千葉大学医学部を卒業し、千葉大学耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学に所属しております。学生時代から漠然と手術を執りたい気持ちにはありましたが、当時は部活動に関心の主軸があり、将来設計のない不真面目な学生でした。しかし実習中に見学した耳鼻咽喉・頭頸部外科での手術の際、ハサミで頸部の大血管ギリギリに薄い結合組織を丁寧に、かつ正確に剥離していく美しい光景が頭の片隅に常に残っていました。

初期研修前半を千葉市立青葉病院で過ごし患者さんの全身管理を行なっていく上で、自分の不勉強さは、そのまま患者さんや周囲のスタッフへの不利益に繋がることが毎日のように実感し、一日も早く一人前の医師になろうと決めました。初期研修の後半は大学病院で研修を行い、県内外から難しい症例が集まる環境に毎日飽きることはなく、将来進む診療科についても何処の科も魅力的で大変悩みました。その中で頭頸部腫瘍という死に直結するリスクも高く、術後の審美性や機能性に配慮する必要のある頭頸部外科の奥深さに出会い、ぜひ私も診療の一端を担いたいと思い耳鼻咽喉・

頭頸部外科に入室しました。現在木更津市にある君津中央病院を経て、福島県郡山市の総合南東北病院で勤務しております。度々執刀する機会をいただいております。未熟さを感じながらも全症例で分かりやすくご指導いただける環境に毎日感謝しております。手術という医療手技は、学生時代に想像していた以上に独特な体験で、それまでは自分史上最髙に高揚した体験は東日本医科大学学生総合体育大会でのスキーレースでしたが、もしかするとそれを超えるような体験を初執刀の術式のたびに味わっています。

手術に邁進する一方でアカデミックな学会の場でも質の高い経験をいたしました。世界で報告数が1000例もない鼻の腫瘍を摘出し、欠損した鼻の軟骨を肋軟骨で再建した症例について発表した際に他大学の先生に、千葉大学では腫瘍切除後の再建まで耳鼻科単独で行うことに驚かれました。それまで、再建も耳鼻科内だけで行うことに対し何の違和感も感じなかったのですが、その瞬間自分が如何に希少な環境下で研修を受けているかに気づくことができました。その環境に感謝する一方で別の思いも湧いて来

ました。腫瘍の病態を正確に把握し手術のプランニングを立て執刀したのは教授をはじめとする耳鼻科の先生方です。また診断に至るまでも他の診療科のエキスパートの手を経て、遂に世の人々に役立つような報告が完成した訳であります。私は最後の発表部分を担ったに過ぎません。いつか私も自分の沢山の経験や研究から、新しい真実を見出し、多くの人に還元できるような新しい手術や研究が為せる医師になろうと心に

決めました。ようやく専門医資格を取るために必要な症例が揃い始めて来たばかりで大きなことを申し上げることは恐縮ですが、目標は大きい方が良く、学生時代の恩師も仰っていたと記憶しています。この思いを何年経っても忘れず一人前の耳鼻科医になるべく、一つずつ小さな挑戦を積み重ねて行く所存です。後輩の皆様方もいつか私と一緒に千里の道を行んで下さる方が一人でも多くいらっしゃるとを心から願っています。

2023年 第48回 むのほな美術展

—千葉大学医学部OBによる美術展—

9月11日(月)~9月17日(日)

AM11:00~PM6:00 最終日3時まで

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第48回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。

銀座 ギャラリー向日葵

〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-13 銀座菊正ビル2F

TEL:03-3573-1680



追悼

谷川久一先生を偲んで

東京大学名誉教授
山梨県立病院機構理事長
千葉大学第一内科同門会会長



谷川久一先生が、去る令和5年1月13日、享年90歳でお亡くなりになられました。

先生は、千葉大学を昭和32年ご卒業後、ミシガン大学に約2年間留学、その後千葉大学第一内科第二研究室に所属、当時としては最も新しい電子顕微鏡を用いた肝臓の超微形態研究に早くから着手、成果を挙げられ、32歳の若さで久留米大学医学部講師(昭和39年)に昇任になりました。

その後、昭和52年、久留米大学医学部第二内科教授に就任されました。谷川先生は終始一貫、肝臓病学の臨床と研究に取り組み、大きな久留米大学第二内科学教室をつくられ、人材の育

小 俣 政 男 (昭45)

成に励まれ、平成10年3月久留米大学第二内科教授を定年退職になりました。

谷川先生が久留米に去られ、故伊藤進先生が埼玉医科大学の教授として赴任され、病理形態学を主とした第二研究室は伊藤よしみ先生を残し、実質的な消滅となりました。自身、昭和54年、米国から帰国、新たな第二研究室を立ち上げ、研究室も病理形態学から分子生物学を扱う小さな部屋に変えました。その研究室の棚に「谷川久一」と書いた木箱が残っておりまして。平成4年、東大に移るまでの13年間、この第二研究室の象徴的な木箱は大切に保存させていただきました。

谷川先生のご尊父は千葉大学学長を務められた最初の千葉医科大学卒業生の谷川久治先生であります。そのご長男として出生され、ご自宅は病院坂を下りたところにごいました。また

奥様は、千葉大学医学部を昭和33年にご卒業された谷川(原)章子様であります。谷川先生が育まれた肝臓病学の久留米の人材は多数であり、多くの若者に囲まれた活発な久留米での臨床研究生活もあり、究極、千葉で、お一人で住まわれたお母様のもとに帰られるということとはございませんでした。

先生の学会活動は多岐に渡り、昭和56年第13回日本臨床電子顕微鏡学会、平成3年第33回日本消化器病学会、平成7年第31回日本肝臓学会の会長を務められ、また、2008年からは日本肝臓学会の理事長を務められました。

昭和の時代の千葉大学第一内科は、多くの先達を学外の教授として輩出いたしました。肝臓病学においては谷川先生、女子医大の小幡裕夫先生、順天堂大学の白壁彦夫先生、さらには、筑波に移られた東條静夫先生など、人材育成の場であり、人材の宝庫でもあったと思われまます。中でも谷川先生は、久留米の地で多くの若者を教育されました。しかし、一方では、千葉に対する終始一貫した熱い思いがあったように感じます。久留米大では、その後、

佐田通夫、鳥村拓司、川口巧、原田大、向坂彰太郎各教授らが、また第二研究室からは横須賀敏、今関文夫、田川まさみ、加藤直也らが教育職に就き、私も及ばずながら東大で次世代、次々世代の若者育成に努めて参

欧州医学史巡り

パヴィア

杉 田 克 生 (昭54)

パヴィアはミラノの南35km程の所にあり、列車なら30分弱で行ける。現在は農業と軽工業の静かな町だが、ロンゴバルド王国およびカロリング王朝時代は首都が

パヴィアはミラノの南35km程の所にあり、列車なら30分弱で行ける。現在は農業と軽工業の静かな町だが、ロンゴバルド王国およびカロリング王朝時代は首都が

りました。いま、先生がおられなくなったというとてもない喪失感がございます。谷川久一先生、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

みず、レオナルドの美しい図入りのノートが残された。18世紀末から1934年までは、サン・マッテオ病院と医学部の施設として使用された。

大学に入ると、中にはミラノの北コモ湖付近で生誕したヴォルタの銅像がある。中を巡りながら回廊の端に歴史博物館がある。展示室は、1783年当時解



写真 パヴィア大学博物館

剖学、外科学の教授アントニオ・スカルパの研究室であった。内部は三室にわかれているが、その一つスカルパの部屋には、彼が作成した嗅覚および鼻口蓋神経標本や前庭神経節や聴覚器に関する資料が展示されている。前庭神経節は別名スカルパ神経節と称される。内耳の球形嚢と卵形嚢について報告し、骨迷路と膜迷路の中の液体はperilymphとendolymphであることを明らかにした。なおこの部屋の入口の戸の上に、スカルパの生首アルコール標本がある。筆者が訪問した際は閉じられていたが、案内してくれた係員が開いて見せてくれた。

この博物館ではカミッロ・ゴルジの部屋もあり、部屋の奥には彼が授与されたノーベル紀章(1906年)、顕微鏡に加え、彼が開発したゴルジ染色に染まった神

経細胞とゴルジ装置の蛍光顕微鏡写真などが展示されている。腎臓に関する発生やマラリア研究の論文なども見られる。彼の弟子であり微生物学者で狂犬病のネグリ小体の発見者アデルキ・ネグリの遺品や標本も展示されている。筆者が知らなかったが、帝王切開術式開発に努めた産科医エドアルド・ポツロの業績なども紹介されている。ヘルニア手術の原点「パッシーニ法」に名を残すエドアルド・パッシーニもここで修業した。彼は従軍した際受けた鼠径部の銃創を外科教授ポルタに直してもらったことで弟子となり、その後手術の助手を務めながら鼠径部の局所解剖を極めた。思ってもいない所で医学知識の関連に気づかされることも、医学史を学ぶ楽しみである。

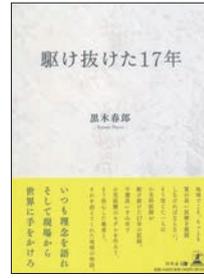


同窓会員著書の紹介

黒木春郎(昭59) 著

駆け抜けた17年

幻冬舎 定価1430円(税込)



私は2005年に千葉県いすみ市で小児科診療所を開設した。その前後、そしてそれからの17年間を一冊の本にした。自分の医療の目標は、地域でこそっとも質の高い医療が提供されねばならないということである。プライマリケアが高度に実現されることこそがすべての人の健康維持のために必須であると考えている。

私が開業した当時、開業医は大学教官や中核病院の勤務医からは一段低いものと見做されていた。しかし、自分で借金をして事業を始めてみると、世界の見え方が変わった。そこで見えてきたものを出版することができた。同窓の方々ぜひご一瞥を願いたい。ご意見をいただくことができれば望外の喜びです。

岩立康男(昭58) 著

忘れる脳力

朝日新書 定価 891円(税込)



「忘れることは悪いことなのか?」

いやいや、忘れるのは脳が正常に働いている証拠であり、正常な脳の働きのために良いことだったので。それを最新の脳科学の成果も含めて解説したのがこの本です。

そもそも私たちが忘れることは悪いこと、と考えているのはそのように教育されて来たからに他なりません。小学校の時に「忘れ物」をすれば先生に叱られ、授業で習ったことを忘れれば、試験でいい点が取れず親に叱られ、などといった経験が積み重なり、一度憶えたことは忘れないほうが良いのだと思いついてきたわけ

おいて、信号の流れ易さが変化することで記憶が作られていますので、記憶できる情報量に上限があるわけです。そこで脳はどうしているかという、海馬という場所での新しいニューロンを作り出し、この新生ニューロンを使って新たな記憶を仕入れていくわけです。

実は、この新生ニューロンが海馬での古い新生ニューロンを消去することによって古い記憶を消していることが分かってきました。つまり海馬では記憶の上書きがされていたのです。古い記憶が新しい記憶で消去されないようにするには、その記憶を海馬ではなくて大脳皮質に移しておくことが必要になります。このためには、何度もそのことを思い出して、その記憶に関する回路に何度も信号を流しておかなければなりません。

この他にも、シナプスを作るタンパク質を積極的に壊していたり、免疫系の細胞が電氣的に活動の弱いシナプスを積極的に食べてしまったら、「忘れる」ことは脳の持つ重要な機能の一つです。

つだったのです。つまり脳は、生存に必ずしも必要でない情報を捨て、もっと重要なことを覚えておくために、記憶に優先順位をつけて取捨選択しているわけです。

自然に忘れて行くことに抗ってはいけません。なんでもかんでも憶えておこうとするのは余分なエネルギーを必要としますので、

脳は細胞に負担をかけることになり、最終的にニューロンの脱落につながって行きます。必要のない記憶をうまく忘れていくことが脳の健康を保ち、高い脳のパフォーマンスを維持する秘訣です。

患者が知らない開業医の本音

松永正訓(昭62) 著

新潮新書 定価 880円(税込)



裏と作家の舞台裏を書こうと決めました。こうして、2021年5月から1年間連載したのが「開業医をやりたい作家もやってみた」です。この連載は、非常に好評だったようで、多いときには、4万人の医師が記事を読んでくれたそうです。これって日本の医師の8人に1人に相当しますから、かなり大きな数字です。連載が終了して、すぐに書籍化を考えました。

新潮新書の編集者さんに連絡を取って新書化を打診すると、たちまち〇が出版されました。とてもリアルなおもしろい内容だと言葉をいただきました。ただし、後半の「作家の舞台裏」については大きくカットすることになりました。理由はいくつかあるのですが、編集部としては「開業医の舞台裏」一本で本を作りたいからという理由です。

杉田克生(昭54) 著

欧州医学史探訪

千葉大学附属図書館リポジトリCURIATOR

欧州医学史探訪



杉田克生
千葉大学附属図書館リポジトリCURIATOR

本書はるのほな同窓会報で連載した「欧州医学史を巡り」を中心とし、他紙に寄稿した医学施設訪問記を加え国別に編集したものです。著者は大学の講義や講演の際に、可能な限り新知識に至った経過を話すことを心がけております。理由は明治時代に西洋の学芸を取り入れる際に、「それを生み出した思想的・文化的基盤に思いを致すことなく、技術的な導入・模倣に終始した」とするボンベの批判を常に心すべきと考えるからです。それを大義名分にして、西洋の文化的基盤の一部でも知るべく、欧州へ海外出張の際に各国の医学の歴史を訪ねた際に見聞した事柄をとりとめもなく記述しました。

学術的価値は乏しいのですが、読者が今後欧州の医学施設を巡る際の参考にしていただければ幸いです。本

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら
るのほな同窓会にご一報ください。

電話 (043) 202-3750

FAX (043) 202-3753

e-mail : info@inohana.jp

雑文雑談

フルトヴェングラー

石出猛史(昭52)

書は千葉大学附属図書館リポジトリに登録されておりますので、<https://doi.org/10.20776/900121550>から閲覧できます。なお本誌の記載に関しては、千葉大学るのほな同窓会の先生方はじめ日本医学切手友の会、日本医史学会の諸兄から多くの医学史情報ならびに施設のご紹介をいただいたことに、深く感謝申し上げます。

休日、朝食を摂った後フルトヴェングラーが指揮するベートーヴェンの交響曲九番を二つ立て続けに聴いた。無論違う録音である。一枚目は1942年4月19日ベルリンでベルリン・フィルを指揮した時のもので、翌日の20日はナチスドイツの総統アドルフ・ヒトラーの誕生日である。この演奏会は、宣伝相のゲッベルスがヒトラーの誕生日祝として企画したもので、フルトヴェングラーには、それを伏せて指揮を執らせたと言われている。当時全ドイツの家庭にラジオ放送するために、レコードに録音したものからCDにおこしたものである(「ヒトラーの第九」)。

二枚目は1951年1月7日ウィーンでウィーン・フィルを指揮した時の録音で、裁判でナチスの協力者という汚名を晴らされた後で、フルトヴェングラー絶頂期の演奏である。このシリーズにはもう一枚、同じ年の7月29日戦後の復活第一回バイロイト音楽祭の開

幕記念演奏がある(「バイロイトの第九」)。ソプラノ独唱はエリザベート・シュヴァルツコップである。聴き較べをしたのは、『フルトヴェングラー音楽を語る』という本を読んだためである。この本でフルトヴェングラーは、ベートーヴェンとその音楽について一章をさしている。読むに至った理由はゴシックとバロックにある(ルネサンスはこの間に入る)。但しその経緯は長くなるので省略する。

ヴァイルヘルム・フルトヴェングラー Wilhelm Furtwängler (1886-1954) は、20世紀前半を代表するドイツの指揮者で、ベルリン・フィルの常任指揮者・終身指揮者を勤めた他、ウィーン・フィル、ロンドン・フィル、バイロイト音楽祭、エディンバラ音楽祭などでも指揮した。ドイツ音楽の本流であるベートーヴェン、ブラームス、ワーグナーの演奏の指揮を好んだという。作曲もしており、交響曲・管弦楽曲なども残している。

ナチスの支配下で当時ドイツの新進作曲家であるパウエル・ヒンデミットが迫害された折これを擁護したこと(「ヒンデミット事件」)、ユダヤ人音楽家を保護したことによってナチスと対立した。ナチスドイツ崩壊間近の1945年2月、親衛隊の追求を逃れてスイスに亡命した。

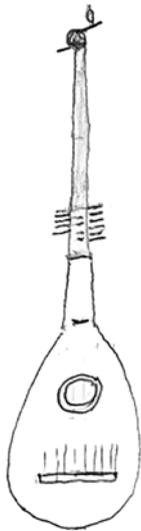
フルトヴェングラーの指揮法が独特のものであったことが知られている。クラシック・ファンの間では「フルヘン」とか「フルベン」と呼ばれているというが、センスのないネーミングだと思ふ。一般的な指揮法では演奏の開始時指揮棒は上に挙げて停止させ(打点、下に振り降して開始する(二拍目)。フルトヴェングラーの指揮は、指揮棒の先が下を向き、ゆらゆらして演奏の開始時に打点の位置が伸々定まらないという特徴がある(筆者は映像でも実見したことはない)。

フルトヴェングラーの指揮法について、音楽評論家の片山杜秀氏(本業は慶應の政治学の先生)は、「フルトヴェングラーはデフォルメがきつくなる。しばしば指揮棒を下から振り上げる。それはわざわざ重力にさかraitたいとの意思表示だ」と評している。オペラ歌手の車田和寿氏は「振るとメンくらう、打点が判り辛い」と評されている。弦楽器を例にとると、高音のバイオリンに比べて低音のチェロでは発音が少し遅れる。この方が楽団員のエネルギーが同じ方向に向かう」と述べている。

フルトヴェングラー自身は「音楽を語る」で緊張と弛緩について、「緊張と弛緩の上下は生命のリズムをあらわす。二つの状態では弛緩の状態のほうが、より自然といえる。歌唱・バイオリン・ピアノのような楽器の演奏の場合、乗馬・スキーのときでさえも、あらゆる緊張にはじめて可能性を与える」と記している。

ノンバーバル・コミュニケーションという研究領域がある。非言語コミュニケーションと訳される。ジェスチャーなどの言葉以外の手段を用いたコミュニケーションである。逆に表情・仕草などから、隠された心理状態を読み取るという目的でも用いられる。チャールズ・ダーウィン著「人及び動物の表情について」(1872)は、これを対象とした最初の研究とされている。

無意識の「腕のしぐさ」についてノンバーバル・コミュニケーションの観点から「心から活気と喜びにあふれているとき、腕の動きは重力にさからう。重力に逆らう行動は、嬉しい感情に結びついている。どれだけ大きく腕を動かすかは、考え方や気持ちと正確に示す重要な指標だ。熱気にあふれたもの―抑制のない広がりのある動き、嬉しくて満足している人の腕は自由に動き、楽しそうにさえ見える」と解説されている。演奏を一番期待して楽しんでるのは、観客でも演奏者でもなく、指揮者であるフルトヴェングラーなのだろう。



学内情報

の は な 同 窓 会 支 援

第16回

Basic and Clinical Research

Conference が開催されました

の は な 同 窓 会 理 事 (総 務 担 当)

安 西 尚 彦 (平 2)

令和5年2月2日に、の は な 記 念 講 堂 と Noon の は な ハイブリッド形式で「第16回ちばBCRC」が開催されました。ちばBCRCは、医学部生のリサーチマインドを涵養することを目的として、スカラシッププログラム(研究室配属)の研究成果を発表する場であるとともに、例年医学研究の基礎と臨床の教室からそれぞれ1名の教授による研究室紹介、そして特別講演などの全ての企画が、有志の学生事務局員により企画・運営されています。

今回の参加者は学生366名、教員・来賓



きる試みを行い、これまでよりもより関心を持って参加して頂けました。

研究室紹介は、基礎からは疾患システム医学眞鍋一郎教授が多臓器に関与し骨髄に記憶されるストレスのお話を、臨床からは眼科学馬場隆之教授が過去・現在の難治眼疾患と新規治療法開発への挑戦のお話をされました。

松原久裕医学部長の講評、スカラシップ賞・千葉医学会奨励賞授与、吉原俊雄同窓会長からのの は な 同窓会長の表彰と続き、3年次のポスター発表の中から3名の学生にスカラシップ優秀ポスター賞が表彰されました。

最後は整形外科学大島精司教授の座長による、種市洋先生(獨協医科大学医学部長・整形外科学主任教授)の特別講演があり、研修医・大学院の頃に感じたものをリサーチを通してその後の脊椎外科の臨床現場で実現させてきた非常に印象的なお話をいただきました。

この度、第16回ちばBCRC (Basic and Clinical Research Conference) において最優秀賞を賜りましたこと、大変嬉しく思います。

同会では、「2つの制御性T細胞による生体恒常性維持機構」について発表いたしました。



医学部6年 上野達矢

第16回ちばBCRC

最優秀賞を受賞して

制御性T (Treg) 細胞は、自己免疫疾患や炎症性疾患等を引き起こす過剰な免疫応答を抑制する役割を担う細胞です。Treg細胞には、胸腺で分化する thymic-derived Treg (Treg) 細胞と、末梢でナイーブCD4+T細胞から分化する peripheral-derived Treg (pTreg) 細胞が存在します。しかしこの2種類のTreg細胞が、生体の各組織における恒常性維持機構に、それぞれどのように寄与するのかは未だ不明です。

本研究では、Treg細胞の胸腺移出を阻害させることで末梢組織にTreg細胞を欠損させた遺伝子改変マウスを作製し、解析を行いました。作製したマウスでは、組織特異的な炎症が観察され、生存率は野生型マウスより有意に低下していました。一方で、全身性にTreg細胞を欠損したScuffyマウスと比較すると、その炎症の度合いや生存率が軽減することがわかりました。この結果は、Treg細胞とpTreg細胞は、各々が異なる組織での炎症抑制機能を有しており、pTreg細胞がTreg細胞の機能を代償できないことを示唆しております。

今後は、両Treg細胞の炎症抑制機能がどのよう

症抑制機能がどのよう組織特異的な違いを生ずるかについて研究を行いたいと考えています。

私は最先端の研究に携わる中で、自らの実験結果から分かる事実は何か、どう解釈できるのかという研究者の基本姿勢を日々指導いただいております。基礎と臨床では医学へのアプローチが大きく異なり、第一線の基礎研究に触れられる環境は大学の強みです。今後は基礎と臨床の両視点を持つ医療者として貢献できるような努力を所存です。最後に本賞受賞にあたり、ご指導頂きました木村元子教授、遠藤将大さんをはじめ実験免疫学教室の皆様方に深く感謝申し上げます。

第16回ちばBCRC

最優秀賞を受賞して

医学部4年 野口駿成



この度第16回ちばBCRC (Basic and Clinical Research Conference) に最優秀賞を賜りましたこと心から感謝申し上げます。また、同会開催にご尽力いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

同会では「膠芽腫幹細胞に対する治療戦略の再構築」について発表いたしました。膠芽腫は、難治性のグリオーマの内の約半数を占め、生存期間中央値は1.5年

という腫瘍とされています。この膠芽腫の治療に深く関わるのがMGMTという遺伝子で、この遺伝子のプロモーター領域がメチル化されていると、標準治療であるテモゾロミドが非メチル化群と比べて効きやすいという先行研究があります。

本研究では、膠芽腫幹細胞と腫瘍検体それぞれのMGMTのメチル化をPCR法によって解析を行い、メチル化の有無を報告しました。

さらに、本研究では免疫療法に着目し、膠芽腫幹細胞の表面抗原の解析をフローサイトメトリーにより行いました。その結果、CD47の発現が多いことが判明し、ミクログリアによる膠芽腫幹細胞除去が期待できることを報告しました。

今後は、検体数を増やし、ミクログリアが膠芽腫幹細胞を除去できるメカニズム判明の足掛かりになるような発見をして行きます。

私はスカラシッププログラムで脳神経外科学教室にて、抄読会・研究に参加し、論文の読み方から実験手技、データの解析方法など、様々なことを学ばせていただきました。先生方の研究に打ち込む熱心かつ真摯な姿勢にはまだまだ及び

ませんが、今後も医学研究の一端を担える一人前の研究者になれるように努力する所存です。

最後に本賞受賞にあたり、

ご指導いただきました岩立康男教授、吉岡正揮先生をはじめ脳神経外科科学教室、未来開拓センターの先生方に深く感謝申し上げます。

菜津川久 (松本 圭) (昭36) 著

小説「鉦」が文庫になりました

幻冬舎 定価 880円 (税込) (会報185号に掲載)



原稿募集

1. 現代の医療問題について
2. 開院など近況報告
3. 会員著書紹介 など

会報発行は、年3回(1月、6月、9月)です。

次号は令和5年9月発行予定です。

原稿は1400字以内にて事務局まで!

原稿締切は発行月の2か月前まで!

E-mail: info@inohana.jp

タッチパネル

同窓会名簿の片隅が語る歴史

みやこ 都 川 流 花 (ペンネーム、同窓会員)

千葉大学のはな同窓会の会員名簿を開いてみると、氏名に続いて住所と勤務先が書かれており、次に専門領域、最後に出身高校名が書かれている。

そこには全国のさまざまな高校の名前がある。しかし、昭和30年代の前半、数年間の卒業生をみると、ほとんどの人の出身高校名の欄が《千葉大学》や《千大文理》となっていることに気づくはずだ。なぜ出身高校の欄が千葉大学なのか。これがどういう意味なのか既に知らない世代がほとんどになっていると思う。歴史の中に埋もれてしまう前にこのことは書いておきたい。

あれは実に奇妙な制度だった。現在は高校を卒業して医学部の1年に入學すれば、普通に勉強している限りそのまま6年まで進んで卒業できる。しかし戦後の一時代はこんな制度だった。千葉大学の医学部に入りたい学生はまず文理学部の中にある《千葉大学医学進学課程》を受験してそこに入学した。そこで2年かけて専門課程(現在の医学部3年以降)に進むための単位を取得するのだが、医学進学課程の定員は120名であるのに対し、千葉大学医学部の専門課程の定員は80名だったのだ。しかも2年間の医学進学課程でその単位を取った時点で、なんと、いったん全員が退学するのだ。退学届の提出が求められる、『願により退学を許可す』という紙が全員に来た。そして進学課程で取得した単位を持って専門課程への入学試験を改めて受験させられたのだ。

試験科目は《数学》、《英語》、《第2外国語(ドイツ語かフランス語のどちらかを選択)》、《生物》、《物理》、《化学》、《人文科学系列から1科目》、《社会科学系列から1科目》の8科目だった。120名と80名の差もさることながら、前年、前々年、それ以前に落ちた人も重なって受けてくるから倍率は毎年のように増える。しかも2年生で全員が退学させられてしまっているのだから、専門課程に合格しなければ《大学卒》の学歴も貰えないわけだ。医学進学課程の私のクラスは受験から発表までの数日間に2名が自殺してしまった。

あれはほんでもない制度だったと思う。出身高校の欄に《千葉大学》、《千大文理》とある世代はこの時代の人たちだ。それだけではない。医学進学課程に入ってから学生は驚くべきことに気が付く。医学進学課程以外の学部の学生でも、2年間で必要な単位を取得すれば医学部専門課程を受験できるのだ。そして、もし不合格でも元の学部、例えば薬学部、教育学部、工学部、園芸学部などにそのまま在籍して最後にはその学部を卒業できるのだ。しかし、医学進学課程は2年までしかなく、そこで退学させられてしまうのだから何のために競争率の高い医学進学課程に入学したのかわからない。

こんなシステムを作った理由を好意的に捉えれば、戦後の混沌期に新しい教育制度を決めた関係者の中に、若者に努力させるための最も確実な方法は退路を断つてしまふことだと考えた人が居たのだろう。中国の歴史書『史記』の中にこんな話がある。紀元前204年に漢の韓信が趙の軍と戦ったときのことだ。韓信の兵は3万、趙の軍勢は30万。10倍の差の兵力だから誰が考えても勝てるわけがない。名將といわれた韓信は兵法の常識を破る作戦に出た。川を背後にして布陣したのだ。絶対に退却できない陣形だ。後ろがないのだから前に出るしかない。命がけて戦った3万の韓信の兵は30万の趙の軍を撃破してしまった。背水の陣という言葉はこれが語源だ。昔の話としては面白いがこんなことが現代に起こったのだ。

同窓会名簿を見れば一目でわかるが、実際、医学部専門課程(現在の3年生)に合格した学生のほとんどは文理学部医学進学課程の出身者だ。他の学部からの合格者はほとんど居ない。退路を断られた兵士がいかに強かったか、韓信の時代から2000年以上後の昭和の学生が証明する皮肉な結果になっている。

千葉大学のこの制度は昭和29年に医学進学課程に入學した学生で終わった。翌年の昭和30年に医学進学課

程に入学した学生からはそのまま6年までストレートに進める制度が変わった。その結果前例のないような不思議な現象が起きた。昭和29年に入学した医学進学課程の学生の何人かが、もう一度入学試験を受けて、わざわざ1年下の学年に入学したのだ。1年下を受ける場合は退学せずに受験が許された。嘗ての同級生の1年下になったような形であったが、1学年上のはずの嘗ての同級生が専門課程の受験に2度失敗した場合、今度は逆にそちらが下の学年になったのだ。

そんなわけで、私の医学進学課程の同級生は全国に散っている。他大学の文科系学部に進んで日銀の中枢に行った人もいるし、芸能プロダクションの幹部になった人もいる。千葉大学の医学進学課程でたった2年間一緒に暮らしただけの仲間ではあるが、その時の同級生の結束は今でも強く続いている。今になって遠い時間を隔てて振り返ってみれば戦後という混沌とした時代の中のものも一つの風景になっている。

程に入学した学生からはそのまま6年までストレートに進める制度が変わった。その結果前例のないような不思議な現象が起きた。昭和29年に入学した医学進学課程の学生の何人かが、もう一度入学試験を受けて、わざわざ1年下の学年に入学したのだ。1年下を受ける場合は退学せずに受験が許された。嘗ての同級生の1年下になったような形であったが、1学年上のはずの嘗ての同級生が専門課程の受験に2度失敗した場合、今度は逆にそちらが下の学年になったのだ。

令和5年卒業生の卒後研修先

1年目	2年目	人数	1年目	2年目	人数
成田赤十字病院	成田赤十字病院	9	国際医療福祉大学成田病院	国際医療福祉大学成田病院	1
君津中央病院	君津中央病院	7	小張総合病院	小張総合病院	1
千葉大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院	7	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	1
松戸市立総合医療センター	松戸市立総合医療センター	6	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1
千葉ろうさい病院	千葉ろうさい病院	5	大森赤十字病院	大森赤十字病院	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	5	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	1
千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	4	同愛記念病院	同愛記念病院	1
国保旭中央病院	国保旭中央病院	4	慶應義塾大学病院	慶應義塾大学病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	4	東京北医療センター	東京北医療センター	1
東京大学医学部附属病院	東京大学医学部附属病院	4	東京通信病院	東京通信病院	1
虎の門病院	虎の門病院	3	公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	1
船橋中央病院	船橋中央病院	2	NTT東日本関東病院	NTT東日本関東病院	1
千葉西総合病院	千葉西総合病院	2	東京警察病院	東京警察病院	1
千葉市立海浜病院	千葉市立海浜病院	2	東京都立墨東病院	東京都立墨東病院	1
国立国際医療研究センター病院	国立国際医療研究センター病院	2	東京都立多摩北部医療センター	東京都立多摩北部医療センター	1
JHCO東京新宿メディカルセンター	JHCO東京新宿メディカルセンター	2	東京都立広尾病院	東京都立広尾病院	1
東京都立多摩総合医療センター	東京都立多摩総合医療センター	2	昭和大学江東豊洲病院	昭和大学江東豊洲病院	1
彩の国東大宮メディカルセンター	彩の国東大宮メディカルセンター	2	さいたま赤十字病院	さいたま赤十字病院	1
さいたま市立病院	さいたま市立病院	2	埼玉医科大学病院	埼玉医科大学病院	1
横浜労災病院	横浜労災病院	2	自治医科大学附属さいたま医療センター	自治医科大学附属さいたま医療センター	1
千葉ろうさい病院	千葉大学医学部附属病院	1	横浜南共済病院	横浜南共済病院	1
小田原市立病院	千葉大学医学部附属病院	1	川崎市立川崎病院	川崎市立川崎病院	1
君津中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	川崎市立井田病院	川崎市立井田病院	1
船橋中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	中津川市民病院	中津川市民病院	1
国保旭中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	名古屋徳洲会総合病院	名古屋徳洲会総合病院	1
松戸市立総合医療センター	千葉大学医学部附属病院	1	公立陶生病院	公立陶生病院	1
千葉県がんセンター	千葉県がんセンター	1	宮崎生協病院	宮崎生協病院	1

課外活動団体だより

千葉大学医学部サッカー部

医学部4年 大竹 翔

千葉大学医学部サッカー部は、東日本医科学学生体育大会優勝を目標として掲げ、部員全員で協力しながらチームとしての力を高め、いくことを目的とし活動しています。現在は医学部薬学部、看護学部からなり、2023年3月時点で、プレーヤー18人、マネージャー6人が在籍しています。週に3回の練習を行い、また日曜日には練習試合を行っています。

サッカーというスポーツは、非常にチームプレイが重要で、個人の能力だけでは勝てないことが多いので、チーム全員が一丸となって戦わなければなりません。そのため、試合で出たチームの課題を分析し、幹部を中心に改善策を話し合っています。こうした取り組みにより、サッカー部は先輩後輩の垣根を越えて、チームとして強い絆で結ばれています。また、一緒に戦い、勝利を目指す中で、大きな喜びや感動を共有すること

ができるのがサッカー部の魅力です。平日の練習は、近隣の中学校やサッカー施設を利用して行います。サッカー部としては十分な部員数ではな

いかもしませんが、練習メニューを工夫し、一人ひとりの意識を高めることで質の高い練習を行っています。その結果、試合に臨んだ際には、練習で培った体力や技術を存分に発揮することができています。新型コロナウイルスの影響で長らく大会が開催されず、練習にかなりの制限があった中でも、自分たちができることを探し、努力してきたことはチーム



2022関東医歯薬獣秋季リーグ優勝時

としてとても大きな成長につながったと思います。

2022年の秋には、関東医歯薬獣秋季リーグという参加校30以上の大会で優勝することができました。このような成績を残せたことは、チーム全員が一丸となつて取り組んできた結果です。中には相手に主導権を握られ続ける苦しい試合もありましたが、部員一人ひとりが高い意識を持ち、日々の練習で鍛え上げた技術と精神力が、勝利を引き寄せたと思います。

以上のように、サッカー部では結果を残しながらも、チームとしても個人としても日々成長をしているのがサッカー部です。今年は数年ぶりの東医体が開催されることが濃厚です。東医体優勝というサッカー部の目標達成に向けてこれからも練習に励んでいこうと思います。

- 役員名**
- 主将：大竹 翔 (医4)
 - 副主将：幕田 剛 (医3)
 - 内務：加藤 雅隆 (医4)
 - 外務：竹田 寛太 (医4)
 - 会計：下地 裕人 (医4)
 - 顧問：佐粧 孝久先生

世界の医療を考える会

医学部2年 蓮本 裕加

世界の医療を考える会は1985年に設立されたサークルで、現在医学部看護学部の約30名の学生が所属しています。亥鼻キャンパスでは数少ないサークルの一つで、参加必須の活動はなく、ほとんどのサークル員は他の部活と兼部をしていて、非常に自由度が高い課外活動になっております。

世界の医療を考える会が設立された当初は、留学生を受け入れるというよりは、サークル員が発展途上国に出向きボランティア活動をするのが主だったものの、現在は医療系の留学生の受け入れと交流を中心に行っています。また、コロナ禍前はサークル員の有志が留学に行き帰国後に留学で経験したことについて発表する機会などもあったそうなのですが、新型コロナウイルスの影響により留学に行きづらくなっている状況が続いているため、残念ながらそのような会は実施できておりません。

現在の活動の中心である医療系の留学生受け入れについて説明したいと思いま

す。留学には2種類ありまして、大学を経由して行われる協定校留学と、医学部の学生主体で運営されているIFMSA(国際医学生連盟)という学生団体を経由するIFMSA留学があります。どちらの留学でも、世界の医療を考える会の中からコンタクトパーソンという、留学生が日本に滞在している間に一緒に観光やごはんに行ってくれる方を毎回募っており、コンタクトパーソンを担当された方は留学生と仲良くなれ、英語を使うための英語力も伸びた、という感想を寄せてくださることが多いです。また、協

定校留学では留学生の受け入れ手続きを大学側で全てやってくたさるのですが、IFMSA留学では留学生の受け入れ先を探したり、ホ

ストファミリーとやり



留学生とのご飯会

とりをしたりなどの手続きを全て世界の医療を考える会の幹部中心で行っています。少し大変ではありますが、幹部で協力しながら留学生の受け入れ体制を整えています。今年度はカナダとインドネシアから2名ずつ留学生を受け入れました。

- 役員名**
- 代表：蓮本 裕加
 - LEO：山崎妃奈子
 - LORE：森重 守里
 - 会計：林 玲奈

近年、解剖実習のための献体登録者が減ってきており、次世代の医師育成に支障を来す可能性が出ております。医学部ではより多くの方々はその活動を知って頂くべく、ホームページをリニューアル致しましたが、ITに慣れないご高齢の方々にはアプローチが難しい面がございます。

これまでみのはな同窓会では千葉白菊会の活動を支援して参りましたが、今回さらに医学部による「献体の集い」を後援することに致しました。自らが受けた医療への恩返しとして、献体に登録される方が非常に多いことから、ご高齢の方にも身近な医療機関での「献体の集い」リーフレット貼付が有効であることが期待されます。以下のURLからPDFをダウンロード頂き、先生方の医療機関の待合室等にリーフレットを貼って頂けますと幸いです。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/shiragikukai>

みのはな同窓会大学支部会長
千葉大学大学院医学研究院副研究院長
安西 尚彦

特別講演

千葉大学医学部 腎臓内科学

教授 浅沼 克彦 先生

慢性腎臓病ってなあに？

ほかにも献体がよくわかるプログラムを用意しています！

詳細は下のQRコードからご覧ください。

奮ってご参加ください！

献体ってご存じですか？
死後、医学の発展のために自らの「身体」を
医学部に一定期間提供する制度です。
「献体の集い」は、献体に興味がある方と
千葉白菊会会員に向けたイベントです。

令和5年度
献体の集い



令和5年 **8月6日(日)** 10:00~11:50(開場9:30)

会場:勝田台文化センターホール (〒276-0023 千葉県八千代市勝田台2-5-1)

参加無料
どなたでも
ご参加いただけます。
先着200名様

参加申込み 下記のURLより事前登録のうえ、参加申込みをお願いいたします。
<https://forms.office.com/r/8sargXKTQv>



ハガキ、メールでもお申込みできます。お名前、メールアドレス、
電話番号、人数を明記し、下記問合せ先まで送付してください。

お問合せ 千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第一係 献体の集い担当
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL : 043-222-7171(代表) 043-226-2500(ダイヤルイン)
E-mail : inohana-soumu1@chiba-u.jp



千葉大学

■主催:千葉大学医学部・千葉白菊会
■後援:千葉県、千葉市、みのはな同窓会

千葉白菊会



令和5年度 千葉大学医師会 日本医師会認定産業医研修会 「基礎（実地）」・「生涯（実地）」開催のご案内

標記研修会を下記の通り開催いたしますのでご参加下さいますようお願い申し上げます。

本研修会は日本医師会認定産業医制度における認定産業医になるための研修及び更新を希望する医師の研修です。

1. 主催：千葉大学医師会
2. 日時：令和5年11月22日（水）18時～20時
3. 場所：千葉大学医学部・医学系総合研究棟3階
第1講義室
千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学亥鼻キャンパス内
JR千葉駅東口
7番バス乗り場から京成バスを利用15分、
「千葉大医学部・薬学部入口」下車 徒歩1分
※ご来場の際は公共の交通機関をご利用願います。



医学系総合研究棟

4. 定員：50名
5. 受講料：千葉大学医師会会員 無料、非会員：2,000円（当日、現金にてお支払ください）
6. 申込方法：Googleフォームよりお申込みください。
申込URL：<https://forms.gle/epaZ9dh22rf6oio38>
※フォームからのお申込みが難しい場合は、下記事務局までお電話にてご連絡ください。
7. 申込期限：令和5年10月27日（金）※定員に達しない場合は期日以降も受付いたします。
8. 研修内容：基礎・実地2単位又は生涯・実地2単位



「作業環境測定実習」

千葉大学大学院医学研究院 環境労働衛生学 教授 諏訪園 靖
同 准教授 能川和浩
同 助教 渡邊由芙香

※生涯教育講座のCC：7. 医療の質と安全 1単位、11. 予防と保健 1単位が取得可能

※定員になり次第締め切ります。

※受講票は発行しませんが、申込み受付後、事務局よりメール等により受付連絡をいたします。

※受講シールは当日研修会終了後に手交いたします。

※不織布マスクの着用等、感染対策にご協力頂きますようお願いいたします。

申込・問合せ：千葉大学医師会 事務局

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部・ろのはな同窓会事務室内

Tel：043-202-3755 Fax：043-202-3757 e-mail：ishikai@c-med.org

ては、理事会として承認する事が難しく、会長に対応を一任することとした。

(6) 医学部旧本館保存について
朝日新聞社、千葉日報社から旧医学部本館に対する取材依頼があり、会長・副会長と庶務担当理事が対応していること、新聞掲載後に千葉県知事との懇談も予定していることが説明された。

(7) 医学部150周年記念
記念文集の作成については、学術・企画部が担当し進めていく事とした。歴史

年表を150周年に向け完成し、その後も更新を続け、学術・企画部、広報部が担当する事とし、歴史年表の作成責任者として田邊政裕理事もメンバーに加わる事とした。千葉医学の伝統をテーマとしたシンポジウム開催に加え、開催時期については今後、検討する事とした。

(8) 寄贈品の対応について
川崎富作氏の遺品について、小児科にて選別したものを同窓会で保管する事とした。

令和5年度 第1回理事会議事要旨抜粋
(Zoom利用によるWeb会議)

日時：令和5年4月20日
(木) 18時より

出席者： 三科孝夫 宮本恒彦
森本直樹

吉原俊雄(会長)
栗原正利(副会長)
白澤 浩(副会長)
大井利夫(参与)
伊藤達雄(参与)
安西尚彦 石川詔雄
伊藤彰一 井上賢治
上田真喜子 岡本和久
剣持 敬 甲賀かをり
諏訪園靖 高橋宏和
田邊政裕 鶴田好孝
中島 透 西川哲男
幡野雅彦 林田和也
ピアス洋子 菱木知郎
星野 聡 松前孝幸

を広めていく事が説明された。

2. 協議事項
(1) 名誉会員の推薦について
吉原会長より資料に基づき、茨城なのはな会、栃木なのはな会、千葉県なのはな会、大学なのはな会より推荐された旨の説明があり、候補者の推薦基準を満たしているとして5名を名誉会員に推荐することが承認された。

(2) 令和4年度決算報告
幡野雅彦理事より資料に基づき、収入について会費等は予算額を少し超えており事業収入はほぼ昨年と同額、寄附金は個人、メモリアル事業(DVD)、会報関連からの寄附があった。支出については、総会費はほぼ予算通り、理事会、委員会費は減額、事業費の同窓サポートプロジェクト経費は卒後50年、25年の卒業生招待のホームカミングデー開催により予算を超えたこと、支部支援は8支部に助成したこと、予備費はDVD制作追加費用、DVD郵送費等を支出したこと、同窓会館設備準備金(メモリアル事業)に500万円積立てた事など説明され承認された。

税理士による会計監査において適正に処理されていることが認められたとの報告があった。

(3) 令和5年度事業計画
安西尚彦理事より資料に基づき、令和4年度とほぼ同等の事業計画であると説明があり承認された。吉原会長より新しい形式での2回目開催となる令和5年度のホームカミングデーは、すでに承認されている卒後60年(昭38)の学年を加えて卒後50年、25年の3学年を招待し、参加人数により会場を決定する事が説明された。

(4) 令和5年度予算案
幡野理事より資料に基づき、令和5年度の予算案について、収入は前年をほぼ踏襲しており、支出については総会費を懇親会開催予定のため増額、委員会費はWeb会議開催予定が多いため減額、千葉BCRC支援にリトリート支援を加え増額、学生活動助成金から増額、部活動助成として運動部、文化系の部活への支援として増額、同窓サポートプロジェクトはホームカミングデー開催のため増額する事が説明され承認された。

吉原会長より会議開催についてはすべてWeb会議開催でなく、状況に応じて対面での開催を検討している事が話された。

(5) 令和5年度役員について
現役員の再任が承認された。新理事として千葉県なのはな会より小島広成氏が候補として推薦され承認された。理事定員数以内での各地区なのはな会理事の増員、会務分担、学年幹事の有効な活動などについては今後、総務会で検討する事とした。新理事甲賀かをり氏、中京なのはな会新会長 剣持敬氏から挨拶いただいた。

(6) なのはな同窓会賞選考結果
社会貢献賞の候補者は今回は選考委員からでなく各地区会長からの意見をまとめ、推薦のあった神田敬氏が承認された。

(7) なのはな同窓会賞規定について
吉原会長から資料に基づき説明があり、選考方法については従来の学術賞を対象とした委員会メンバーでなく、理事会において精査・審議し、会長が決定する案が承認された。募集要項を少し修正し、申請書についても学術的な記載は不要としたシンプルなものとした案が承認された。

(8) 総会について
吉原会長から総会のお知らせについて、講演会チラシも作成する事が説明された。懇親会についての開

催は従来どおりとするが「社会的状況に応じて変更もあります」と入れ柔軟に対応する事とした。総会の開催方法については以前のようには持ち回り(東京、千葉、神奈川など)とするべから今後検討することが述べられた。

(9) 医学部150周年記念
栗原正利副会長より資料に基づき、長尾精一先生の胸像再建について説明があった。胸像は2体あったが、費用がかかるため150周年では初代の長尾先生像を再建し、荻生録三先生像は次期の周年記念に委ねる事としている。胸像制作費用は200〜250万円ほどで製作期間は6カ月程度である。著作権については50年経過しているので問題ないとの事。長尾先生の塑像が見つかり制作は容易となったが、台座の強度、胸像の大きさ、設置場所、柵の設置等検討し進めていく事とした。胸像再建費用は150周年記念事業として千葉大みらい医療基金から寄附を募る案が提案された。白澤浩副会長より、みらい医療基金には、同窓会館の補修も含めて寄附募集を依頼したいと考えている事、150周年記念事業については全額を寄附金からでなく同窓会と

して基金を取り崩す事も考慮する必要があるのではとの意見があった。

記念文集の作成については、投稿者に直接依頼して原稿を集めるように進め、写真の提供も求める、主にPDFで作成し一部を冊子体とする予定である事が説明された。

田邊政裕理事より、歴史年表について展示用(150周年保存版)を亚克力板などのパネルで作成する予定であり、デジタル画像については、白澤副会長と検討し作成する予定である事が説明された。展示場所が良い事、ただ配色を検討してはとの意見があった。

シンポジウムについては、メンバーなど今後も検討していく事とした。「千葉大学はどこを指すか」という視点で、との提案があった。

(10) その他
吉原会長から、旧本館DVDに関する取材を朝日新聞、千葉日報から受け、いずれ新聞に掲載される予定であり、今後、千葉県、千葉市に働きかけることも必要と考えている事が話された。

医学部旧本館について建築家 千葉工大今村平教授との話し合いについて報告された。

令和5年度 るのほな同窓会総会議事要旨

日時：令和5年6月10日 (土) 14時30分より

場所：ステーションコンファレンス東京

ハイブリッド開催

出席者：102名(会場42名、オンライン60名)

委任状：614名

安西尚彦理事の司会により開会となり、まず物故者126名に黙祷を捧げた。吉原俊雄会長の挨拶の後、議事が進められた。

議事

(1) 名誉会員の推薦

吉原会長より内規に基づき推荐された5名の会員について説明があり承認された。(3面に掲載)

(2) 年次活動(報告事項)

① 庶務部報告

安西理事より令和4年度の各会議開催が報告された。

② 事業部報告

同理事より、同窓会賞の授与、同窓会報の発行、同窓サポートプロジェクト、各種助成、メモリアル事業について報告された。

(3) 令和4年度決算

① 決算報告

幡野雅彦理事より、収入のうち会費は予算額を少し超え、事業収入は平年並み、

グデー開催を3学年を対象とするため増額する等の説明があり、承認された。

(6) 令和5年度役員

吉原会長より、前年度役員の新任、新理事として千葉県のるのほな会、栃木県のるのほな会、千葉大学のるのほな会、また新会計監事として幡野雅彦理事が推薦され、承認された。

(7) るのほな同窓会賞規定

白澤浩理事より、るのほな同窓会賞選考委員会は学術研究助成を目的としていたため、今後は案件を理事会において精査・審議し、会長が決定することが説明され、承認された。

(8) 医学部150周年記念

田邊政裕理事より、医学部150年の歴史年表を作成中であり、デジタル画像の作製も検討しているとの報告があり、栗原正利副会長よりDVD寄附の状況、記念文集の作成、初代学長尾精一先生の胸像再建について説明があり、胸像制作費用は200万円程を見込み、製作期間は6か月程、今後台座の強度、胸像の大きさ、設置場所、柵の設置等検討を進めるとした。

(5) 令和5年度予算案

幡野理事より令和5年度の予算案は、収入は前年と同等であり、支出は総会費を懇親会開催予定のため増額、委員会費で減額、ちばBCRC支援に夏のリトリート支援を加え増額、学生生活助成金は部活動助成支援を加え増額、同窓サポートプロジェクトはホームカミン

るのほな同窓会賞表彰式

吉原会長の司会により、社会貢献賞受賞者神田敬氏の略歴等が紹介され、表彰式が行われた。吉原会長より表彰盾と副賞が授与された。

るのほな同窓会賞受賞者挨拶

社会貢献賞受賞者神田敬氏ご長女木下香理氏より挨拶文が代読された。

特別顧問挨拶

吉原会長の紹介で、三木隆司千葉大学大学院医学研究院長・医学部長と横手幸太郎千葉大学医学部附属病院長が挨拶された。

ビデオメッセージ

大石賢吾長崎県知事がビデオにて挨拶された。

講演

座長横須賀忠理事の紹介で「ゲノムデータをプライバシーケアで利用する日は来るか？」鎌谷洋一郎氏、齊藤光江理事の紹介で「産婦人科学に関する最近の話題と千葉での課題」甲賀かをり氏による講演が行われた。



令和5年度予算

Table with 2 columns: 款項目, 予算額(円). Includes income and expenditure sections.

令和4年度決算報告

Table with 4 columns: 款項目, 予算額(円), 決算額(円), 対予算額(円). Includes income and expenditure sections.

註1~4: 収入、支出の主要細目等

Table with 4 columns: 収入の部, 支出の部, 令和5年度予算, 令和4年度予算. Detailed breakdown of major items.

るのほな同窓会費
口座振替ご利用の先生方へ

同窓会会費納入に口座振替をご利用いただき厚くお礼申し上げます。

さて、令和5年度同窓会費5,000円をご指定口座より7月20日に振り替えさせていただきます。

今後とも同窓会活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

石杉白池南滝新阿儀広菅原渡宮松武飯羽渡加霜木杉上島仲清川土
井山井田園口井比垣田野沢部地野井島島辺藤島村山野崎田川島岐
多留
仲敏草義光喜博 和方幸士健淳 英哲正 静高 素敏政
博子雄二一雄男之弘俊栄彦郎三治稔剛護一志雄強也次清一道正令

新昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭
濁31313130303028272727橋2626262625浜恵24242323本2016大13
大・昭31) 医専・昭26) 市医大専・昭昭2524) 歯・昭20) 歯・昭15)

田大計高田川岩藤朝木松谷齋加加野関小最芹矢高道工佐海吉谷蟹
中本見柳中島澤森倉村山口藤藤藤崎根沢上山野橋脇藤藤野田川澤
柳
則恭一長 太昭宗茂 輝 利昌喜文憲 栄 柁 公逸俊徳 久晴
好平雄子満郎二徳夫稔男滋隆義市行治号蔵博多功一郎一二豊一子

昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭
404039兄38大恵37大636363636大35本和3434京本3333323232
島大・昭38) 医大・昭37) 昭昭3636) 昭昭3535) 医大・昭昭3434) 歯大・昭昭3333)

嶋外木栗林小佐和野入相森鏡栗添田日平向加泉内笠遠御佐野
浦暮田 松竹田本江沢 味原原中野野井部屋山井藤園藤村
謙 一 勝純輝利信隆正邦甲順 隆泰和 恒嘉幸安保正 泰
郎功広夫彦典生弘嗣隆士子勝真徹二夫哉將雄昭信隆利紀彰將

平平昭昭独岐昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭
1466359協阜555454山5151沢4847大46454444大424241濁40
医歯大・昭昭5858) 大歯・昭昭5351) 大・昭昭50) 昭昭46) 昭昭43) 大・昭昭40)

お
く
や
み

千葉医学99巻1号 2023年2月
千葉医学会奨励賞
骨軟部肉腫新治療法開発に向けた患者由来肉腫細胞株の樹立
土屋流人

研修報告
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックが
終わらない中でのジュネーブ・ベルリン国際研修を終えて
戸高恵美子
ジュネーブ国連・国際機関, シヤリテ・ベルリン医科大学に
おける研修報告 - 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)
流行による中断後の再開 -
川波亜紀子 戸高恵美子 頼名 幸
佐久間里子 森 千里

千葉医学史
千葉医療センターに伝わる「獅鷹鷹目行以女手」の柱掛け
森嶋友一 鈴木一郎

学 会
第1457回千葉医学会例会・令和3年度第21回千葉大学大学院
医学研究院呼吸器病態外科学教室例会
第15回ちばBasic & Clinical Research Conference 学生発表抄録
編集後記 松原久裕
Chiba Medical Journal
Chiba Medical Society Award Review
Developmental mechanism of hydatidiform moles based on DNA
polymorphism analysis Hirokazu Usui

千葉医学99巻2号 2023年4月
総 説
医学教育改革25年の歩み 田邊政裕
千葉医学会奨励賞
プロテオミクスによるMDM2が制御するフェロトーシス分子基盤
の探索 古木直人
学 会
第1466回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会
第1471回千葉医学会例会・第40回脳神経内科学教室例会
編集後記 小林欣夫

第100回千葉医学会総会記念大会開催のご案内
Chiba Medical Journal
Chiba Medical Society Award Review
Intestinal mucosal defense and diseases: a prospective review of the
pancreatic-gut axis Yosuke Kurashima
Chiba Medical Society Young Investigator Award Minireview
Catalytic and non-catalytic functions of histone methyltransferase
SETD1A in diseases
Sota Kikuchi, Atsushi Kaneda, and Takayuki Hoshii

編
集
後
記

るのほな同窓会報第一九二号をご覧いただき誠にありがとうございます。3年以上に及んだコロナ禍は収束とはいかないまでも、5類移行後も大きな拡大はなく経過しており、各医療機関の皆様、同窓の皆様は安堵されていることと存じます。今号では同窓会総会をはじめ、多くの対面での各支部会、クラス会開催の報告が掲載されており、徐々に以前の社会生活が戻ってきていることを実感しております。

振り返ってみますと、今回のコロナ禍のような、ある時点では正解の見えない問題に對峙してきたなかで、我々は非常に多くのことを学んできたと思います。正確な情報収集、チームでの迅速な対応、先送

りしない決断力、柔軟な修正力など、組織として大きく成長してきたことは、私自身が所属する病院にも良く当てはまります。もちろん横手病院長率いる千葉大学病院が率先して我々の規範となるような迅速な対応をし、社会に千葉大学医学部附属病院の存在をアピールしたことは記憶に新しいところですが、そして多くの医療従事者が正しいスタンの知識を身につけたことも大きな収穫と言えらると思います。これから変異株の出現など新たな脅威にさらされることとなっても、英知を絞ってその時点で最善の手を打つことが必ず出来るものと確信しております。

今野 慎 (昭62)